

このマーク（複十字）は、
世界共通の結核予防運動の
旗印です。

No.
371

2016.11

結核・肺疾患予防のための 複十字

アジアと
世界の結核を
なくさなければ
日本の結核は
なくなる



本誌は複十字シール募金の
収益により作られています
<http://www.jatahq.org>

結核予防週間レポート



健康日本21

公益財団法人結核予防会

✳ 2016 結核予防週間レポート ✳

今年も、9月24日から30日までの結核予防週間を中心に、「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」が実施され、全国各支部で工夫を凝らした活動が行われました。その活動を紹介いたします。

愛 媛



松山市いよつ高島屋前北側歩道（松山市駅北口）付近にてポケットティッシュ、リーフレット、小型シール、カレンダー、風船を配布し、募金者にはクジ引きにて複十字シール運動の啓発グッズをプレゼント。

高 知



高知市中央公園北口周辺にて、パネルや幟、ポスターを展示するとともに、県健康づくり婦人会、県健康対策課の協力を得て結核のリーフレット、ポケットティッシュ、風船等の啓発資材を配布し募金呼びかけた。

福 岡



大丸福岡天神店エルガーラ・バサージュ広場にて、福岡県結核予防婦人会との共催でミニ講演、結核予防パネル展示、普及啓発資料の配布を行い、あわせて健康相談、血圧・体脂肪・肺年齢・骨密度測定、胸部レントゲン健診、募金活動を実施し、多くの方々にお立ち寄りいただいた。

佐 賀



支部職員と県婦人会、県庁職員の合同で県内ショッピングセンター2カ所（イオン佐賀大和店、ゆめタウン佐賀）において無料血圧測定やパンフレット、複十字シール、ティッシュ、風船等を配布しながら募金の呼びかけを行った。

長 崎



市内浜の町ベルナード観光通り他1カ所にて、長崎市、佐世保市の協力を得て、結核の基礎知識パネル展示や結核の常識、リーフレット、カットパン、マスク、複十字シール運動リーフレットを配布して普及啓発を行った。

熊 本



熊本市荒尾市「あらおシティモール」にて、パンフレット、複十字シール、結核予防週間広告入りうちわ、複十字シール図案付ポケットカレンダーの啓発資材を配布し、パネルや肺模型の展示・無料結核検診、健康相談、キーホルダー作りなどを実施した。

大 分



トキハ本店前及び中央商店街において、結核予防婦人会、県、大分市保健所と街頭啓発活動を行い、結核検診の重要性を呼びかけるとともに、シール、リーフレット、カットパン等を配布して募金活動を実施した。

鹿 児 島



鹿児島中央駅構内において、県結核成人病予防婦人会・県職員の協力を得て、小型シール、リーフレット、ポケットティッシュを配布し、結核予防週間、複十字シール運動のポスターや幟旗、結核に関するパネル等を掲示し、結核予防週間の周知ならびに募金活動を行った。

宮 崎



宮崎市中心部若草通「街市」他2カ所にて、広報資材や複十字運動のロゴ入りボールペンを配布した。街市という地域のイベントの中で様々な年齢の方に対し、より多く啓発ができた。

沖 縄



県庁ロビー、各保健所内（6カ所）、大型スーパーイベント広場にてパネル、ポスターを展示。県、県結核予防婦人連絡協議会、那覇市保健所の協力を得て、結核普及啓発資材やチラシ等を配布し、街頭募金を行った。

本 部



本部のある水道橋ビル前にて、ポスターの展示やパンフレット等を配布して街頭キャンペーンを実施した。



結核予防会群馬県支部長
(公益財団法人群馬県健康づくり財団理事長)

すとう えいじん
須藤 英仁



本年6月29日付けで群馬県健康づくり財団の理事長に就任するとともに、結核予防会群馬県支部長に就任いたしました。よろしくお願い申し上げます。

当支部は、昭和15年4月に設立されて以来、結核に対する知識の普及啓発や結核を中心とした胸部疾患の早期発見に努めてまいりました。

この間、昭和61年には、県民の総合的な健康づくりを推進することを目的に、当支部と財団法人群馬県対がん協会及び財団法人群馬県公衆保健協会の3団体が統合し、財団法人群馬県健康づくり財団が設立されました。その後、平成25年4月に公益財団法人に移行し、本年が財団設立30周年の節目の年となります。

さて、本県の結核事情は、平成27年度の新登録患者数が192名と前年度より12名減少し、罹患率は9.7（人口10万対）で、全国でも罹患率の低い方から7番目と

なっております。なお、70歳以上の高齢者が占める割合は、ここ数年60%前後と高い状況で推移していること等から、県や市町村、婦人団体等と連携・協力し、結核予防の普及啓発活動を積極的に行っていかなければなりません。

また、健診機関を取り巻く環境は厳しいものがありますが、財団設立の基本理念をしっかりと踏まえながら、健診・検査に対する県民の要望に的確に対応し、県民の総合的な健康づくりに努め、これまで以上に県民から信頼される財団であり続けるよう、各種事業に取り組んでまいり所存です。

今後とも関係各位のますますの御支援と御指導を賜りますようお願い申し上げます。支部長就任の御挨拶とさせていただきます。🐼

Contents

■ メッセージ

支部長就任の御挨拶 須藤 英仁……1

■ 結核予防週間レポート

- 2016結核予防週間レポート ……2
- 結核予防週間支部・本部活動報告 ……5
- 平成28年度都道府県知事表敬訪問報告 続報 ……8

■ シリーズ 結核対策活動紹介

岡山晴れ晴れDOTS手帳導入による薬剤師の関わり 佐藤 可奈……10

■ 平成28年度結核予防技術者地区別講習会実施報告

安藤 慎治・佐藤 明絵・丸山 聡・山本真奈都
・斉藤 典代・岡本 哲也・篠原由紀子 ……12

■ 世界の結核事情(6)

ミャンマーにおける結核対策支援 野崎成功真……15

■ 結核を生きる

結核との10年におよぶ長い闘い
—ミルドレッドさんの場合— ミルドレッド……16

■ 教育の頁

英国の院内感染対策を垣間見て 木村 幹男・高田 修嗣……18

■ シリーズ 結核予防会国際研修50年を振り返って(5)

結核ラボ国際研修（結核菌検査コース） 藤木 明子……22

■ 思い出の人を偲んで

仲村英一先生を偲んで 田中 慶司・中谷比呂樹……26

■ 国際研修「平成28年度UHC時代における結核制圧コース」

に参加して 陳 禹……28

■ 「総合胸部検診のあり方」検討委員会報告書の刊行に際して

竹下 隆夫……29

■ たばこ

受動喫煙のない日本をめざす委員会
東京都知事小池百合子氏宛に要望書 ……30

■ 第68回保健文化賞 結核予防会募金推進部

小林部長が受賞！ ……30

▽予防会だより

○カンボジア健診・検査センター設立プロジェクト進捗報告
柳 亮一郎・菅本 鉄広……31

○パネルディスカッション「『レントゲン』がアフリカの健康を守る！」開催 ……31

○国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会
(APRC2017) 準備委員会だより No.9

○グローバルフェスタJAPAN2016
「for the First Step ～新しい目標に向かって～」

○清瀬市とブックカバーを作りました！

〔表紙〕作者 元厚生労働省老健局長 宮島俊彦氏令夫人

✧ 2016 結核予防週間レポート ✧

本誌表紙に引き続き「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」の活動を紹介いたします。

北海道



札幌市保健所と共催で婦人会の協力を得て、夜間無料結核検診（問診、血圧、胸部レントゲン）等を実施し、札幌市内（北区、中央区）、厚岸町、白糠町で普及啓発資材を配布した。

青森



青森市内のショッピングセンターなど3会場で、支部職員、県結核予防婦人会が広報資材を配布し、結核予防の普及啓発活動を行った。

岩手



当支部「よばういがく協会健康フェスタ2016」にて広報資材を配布し、募金を呼びかけた。肺機能検査などの無料の検査体験コーナーを設け多くの方に健康について考えていただく機会となった。

宮城



JR仙台駅西口ベデストリアンデッキにて、県婦人会との共催で結核の常識・マスク等の広報資材を配布しながら結核予防や複十字シール運動を呼びかけ、また結核予防パネルを展示した。

秋田



秋田駅東西連絡自由通路「ぼぼろ〜ど」・アゴラ広場にて婦人会の協力を得て広報資材等を配布。のぼりやパネルを設置して複十字シール運動への募金を呼びかけた。「スギッチ」との記念写真撮影は好評だった。

山形



県内6カ所で結核の常識・がん検診リーフレット等広報資材を配布。山形会場では乳がん・子宮がん検診の無料クーポン券配布、無料骨密度測定、受診勧奨を実施した。

茨城



県・保健所・県健康をまもる女性団体連絡会とともに県内3カ所でパンフレット等を配布し、結核予防を呼びかけた。

栃木



宇都宮市内ショッピングモールベルモールにて普及啓発資材やバルーンアート、シールぼうやの風船を配布し、パンチングボールの設置、結核に関するパネルの展示を行った。

群馬



ぐんま男女共同参画センターにて、来場者に結核の現状や予防法について説明し、リーフレット、ボールペン、マスク・封筒などを配布して、普及啓発活動を行った。新聞広告を2紙に掲載した。

埼玉



JR大宮駅駅頭（西口）において、ポケットティッシュや複十字シールを配布し、結核予防を呼びかけながら募金活動を実施した。産経新聞、埼玉新聞が取材に訪れ、活動の様子が掲載された。

千葉



千葉そごう前広場とJR千葉駅東口にて、広報資材の配布とともに募金の協力を呼びかけた。ママさんバスバンドの皆様、千葉県マスコット・当財団マスコットとともに結核予防の大切さを広めた。

東京



秋葉原UDXサボニウス広場で、のぼりを立て広報資材を通行人へ配布してPRを行った。東京都と共催し、健康診断を受ける機会の少ない若者を対象に無料結核検診を行い結核予防週間を周知した。

神奈川



小田急厚木駅や藤沢駅コンコースで婦人会及び保健所職員と協力して結核の常識、小型シール、絆創膏、他感染症予防資料等を配布し、広報活動を行った。

長野



松本駅周辺、長野駅周辺にてのぼり旗を掲示し、婦人会の皆様との協力を得てポケットティッシュ、ポケットカレンダー、リーフレット等を配布して啓発活動を行うとともに、募金活動も実施しました。

新潟



新潟市中央区万代の商業地、万代シティにて新潟市の主催で行われた「市民健康福祉まつり」にて募金活動。リーフレット、小型シール、ボールパン等を配布。あわせて肺年齢測定も実施した。

富山



富山市総曲輪グランドプラザ付近にて結核の常識、複十字シールのカットパン、ボールペンを配布し、結核予防を呼びかけ、パルーンパフォーマンスによる路上パフォーマンスを行い、お子様連れの家族にPRを図った。

石川



金沢市内の「しいの木迎賓館」広場及び正面で、結核の常識、複十字シール運動チラシ、県内の検診日程問い合わせ一覧、シール、絆創膏、ティッシュを配布し、結核予防を呼びかけた。

福井



ラブリーパートナーエルバにて、結核の常識、複十字シール運動リーフレット、ポケットティッシュ、「思い当たるあなたは結核かも」チラシ・複十字シールを配布し、募金活動を実施した。

山梨



小瀬スポーツ公園での「いきいき山梨ねりんピック」に出展し、結核予防週間の告知と結核予防を呼びかけた。ねりんピックはシニア世代の体育大会のため参加者の多くが結核に関心を寄せており、活発な普及啓発を行うことができた。

長野



松本駅・長野駅周辺にてのぼり旗を掲示して、ポケットティッシュ、ポケットカレンダー・カットパン・リーフレット、ボールペン（募金者）等を配布して普及啓発活動を実施した。

岐阜



ショッピングセンターイオン岐阜店にて結核の常識、複十字シール運動リーフレット、啓発資料等を配布。県民ふれあい福祉会館でもパネル展示や普及啓発資料を配布した。

静岡



アビタ静岡店にてシールぼうやと一緒に啓発活動を実施。結核の常識、複十字シール運動リーフレット、ポケットティッシュ、絆創膏、お子様には風船を配布し、結核パネル展示を実施した。

愛知



あいち健康プラザにて結核の常識、複十字シールや、結核予防週間標語を掲載したカレンダー（10月～3月）に当日その場で撮影した写真を入れてプリントしたものを配布した。

京都



京都駅前中央改札口広場、京都タワー付近、烏丸七条交差点付近にて複十字シール運動リーフレット、シール、マスク、ティッシュを配布して普及啓発活動を実施した。

滋 賀



支部職員、県地域女性団体連合会会員、県職員が、イオンモール草津内で結核予防啓発の呼びかけとともに資材袋の配布、結核パネル展示、クイズ、シールぼうやとの写真撮影等を実施し、結核の知識定着を図った。

大 阪



当法人玄関前にて「結核をなくそう」ののぼりを設置し、啓発グッズ(ポケットティッシュ、うちわ、エコバッグ)等を配布し、結核予防週間の周知と複十字シール募金の協力を呼びかけた。

兵 庫



JR姫路駅中央コンコース、三宮駅周辺にてスタッフ用のベスト、たすきを着用し、ティッシュ、風船等普及啓発資材の配布、のぼりやシールぼうやの人形、ポスターを活用しながら募金を呼びかけた。

奈 良



奈良県庁内、各保健所、奈良県健康を守る婦人の会各支部で複十字シール、ティッシュ等を配布して募金活動を実施した。また奈良新聞に結核予防啓発の広告を掲載した。

和歌山



和歌山駅前など2カ所にてパンフレット、あぶらとり紙、和歌山県結核相談支援センターリーフレット等をセットにして配布し、結核予防の普及啓発を行った。

鳥 取



バードハット他県内合計3カ所で複十字シール、複十字シール運動リーフレット、ポケットティッシュ絆創膏を配布して県内の結核状況をPRした。

島 根



ゆめタウン斐川など県内3カ所にてチラシ、マスクをセットにして配布。各保健所主体の活動に参加する形となった。結核予防週間中ラジオCM(20本)を放送した。

岡 山



JR倉敷駅にて、シールぼうやが参加してポケットティッシュやリーフレットを配布して結核予防の普及啓発を行い、募金を呼びかけた。募金にご協力いただいた方には複十字シールやシールぼうやのボールペン等入りクリアファイルを差し上げた。

広 島



呉市で行われた第8回呉市健康の日「ウォーキング大会」において広報資材の配布及び複十字シール募金を呼びかけた。

山 口



美祢市大嶺町美祢市役所で開催された「第31回福祉の市」において支部用ブースを設置して結核パネルを展示。会場内でシールぼうやの着ぐるみや風船、たすき、幟旗を活用し結核予防婦人会とともにパンフレット等を配布して普及啓発活動を実施し、募金への協力を呼びかけた。

徳 島



「健康を考える県民のつどい」をあわぎんホール(徳島市)において、徳島県、徳島県婦人団体連合会の協力を得て、リーフレット、結核の常識2016を配布するとともに募金活動を実施した。

香 川



イオンモール高松で香川県婦人団体連絡協議会と協力し、ポケットティッシュや啓発資材を配布し、結核の常識パネルを展示し、来場者に結核に関する知識を普及した。

都道府県	日付	開催数	係員合計	資材点数・セット数	報 告〔1〕場所・2〕活動内容・3〕その他
北海道	9/4、10～11、23、26、28、29～30	7カ所	100	6点 3,000セット	1) 札幌市北区(3カ所)・中央区(2カ所)、厚岸町、白糠町 2) 複十字シール小型、リーフレット、結核の常識、COPD啓発リーフレット、カットパン、マスク 3) その他 ①夜間無料結核検診を実施(札幌市保健所と共催) 検査内容:問診・血圧・胸部レントゲン 受診数:21名(同会場にて無料肺年齢測定を実施 受診者:22名) ②結核予防パネル展の開催(同会場にて無料肺年齢測定を実施 受信者:17名)
青森	9/24	3カ所	32	9点 1,450セット	1) 青森市内のショッピングセンターなど3会場 2) 支部職員と結核予防婦人会会員が広報資材(結核の常識2016、複十字シール運動リーフレット、小型シール、ポケットティッシュ等)を手つき袋に詰め配布。子供には風船を手渡し、結核予防の普及啓発を行った。また、シールばうやの着ぐるみが3会場をまわり、会場を盛り上げた。 3) 募金活動の様子は、地元テレビ局1社、新聞社1社で放映、掲載された。
岩手	10/15	1カ所	2	6点 150セット	1) 岩手県予防医学協会主催の「よぼういぐく協会健康フェスタ2016」 2) 結核の常識2016・複十字シール運動リーフレット・複十字シール・「STOP TB」メッセージ入りオリジナルポストイット、シールばうやカットパン、シールばうや風船を配布し、募金を呼びかけた。フェスタでは、肺機能検査をはじめとした無料の検査体験コーナーを設け、多くの方に健康について考えていただく機会となった。
宮城	9/24	1カ所	18	5点 800セット	1) JR仙台駅西口ペDESTリアンデッキ 2) 結核予防パネル展示やパンフレット・マスク・風船等を配布しながら結核予防や複十字シール運動の呼びかけを行い、県婦人会との共催で街頭キャンペーンを実施した。
秋田	9/24	1カ所 (うち 婦人会 14名)	24 (うち 婦人会 14名)	4点 500セット	1) 秋田駅東西連絡自由通路「ばぼろ〜ど」・アゴラ広場 2) 結核の常識2016・リーフレット・カットパン・ティッシュをA4版のビニール袋にセットしたものを配布。秋田駅東西連絡通路「ばぼろ〜ど」からアゴラ広場にかけて、キャンペーンののぼりを設置。会場内にパネルを2枚設置し、キャンペーンの趣旨やポスター、パンフレットを展示した。募金活動については、支部職員と婦人会員が4グループに分かれて実施。ハンドマイクを使い複十字シール運動への御協力を訴えた。 秋田県のマスコット「スキッチ」と一緒に記念撮影を行いポロイド写真プレゼント。小さい子供たちには風船をプレゼントし大変好評だった。 3) ①新聞広告:秋田魁新報 9/23掲載 ②野立て看板の設置:9/1～30 場所:秋田県総合保健センター前
山形	10/2	6カ所	26	5点 1,500セット	1) 山形市「イオンモール山形南」、鶴岡市「国際交流センター」、新庄市「市民プラザ」、真室川町「総合保健施設」、米沢市「ヨークベニマル成島店」、南陽市「マックスバリュ南陽店」 2) 「結核の常識2016」等パンフレット・複十字シール・がん検診リーフレット・クリアファイル・ポケットティッシュ他 3) 山形会場では乳がん・子宮がん検診の無料クーポン券配布、無料骨密度測定を実施し、受診勧奨を行った。
福島	8/7、10/1～2	2カ所	12	4点 700セット	1) 8/7、福島市主催「健康フェスタ2016」会場:AOZ(アオウセ)、10/1～2、福島県主催「チャレンジふくしま県民運動フェスタ」会場:ビッグプラットふくしま 2) 無料検査コーナーを設け、来場者を対象に骨密度測定を行った。会場では、のぼりや複十字シール運動のポスターを掲げ、結核に対する知識の普及啓発に努めた。また、募金箱を設置し、複十字シール運動への協力を呼びかけた。 3) 新聞広告:結核予防週間に合わせ地方紙2紙で新聞広告を行い、結核について広く周知するとともに結核予防週間のPRを行った(9月23、24日付)。
茨城	9/1～9/30	3カ所	41	4点 1,900セット	■街頭キャンペーンの実施 茨城県・保健所及び茨城県健康をまもる女性団体連絡会とともにパンフレット等を配布し、結核予防を呼びかけた。 9/24…イオンタウン守谷(守谷市)1,000セット、9/27…日立駅前(日立市)600セット、9/30…イオンモール下妻店(下妻市)300セット ■視察見学者への講話 がん体験者を講師に、呼吸器疾患早期発見のため検診の重要性を講話した。9/14…常陸大宮市健康づくり推進協議会(17名)、9/27…坂東市国民健康保険運営協議会・健康づくり推進協議会(14名)、9/28…常陸大宮市社会福祉協議会(22名) ■ホームページによる告知 当支部のホームページにて結核予防週間を告知した。掲載日:9/15 ■結核予防ポスター及びパンフレットの配布 茨城県、市町村、医師会等の関係団体のほか、県内全学校(小・中学校、高等学校、専門学校、大学)へ結核予防ポスターとパンフレットを配布した。ポスター1,100枚、パンフレット8,000部
栃木	①9/17、 ②9/5～29、 ③9/23～30、 ④9/24、 ⑤9/1～30	①1カ所 ②③ 3カ所 ④795カ所	①20 (うち 婦人会 10名、 支部10名)	①1点 1,000セット	①1) 宇都宮市内のショッピングモール「ベルモール」にて街頭キャンペーンを実施 2) 資料セット:内容(リーフレット、小型シール、シールばうやボールペン、募金の案内、募金振込用紙 3) バルーンアート及びシールばうや風船配布、パンチングボールの設置、結核に関するパネルの展示 ②地元FMラジオ(エフエム栃木レディオベリー)にて、結核予防週間に関する60秒告知を制作し、期間中16回放送した。 ③地元テレビ(とちぎテレビ)にて、結核予防週間に関する45秒告知を制作し、期間中15回放送した。 ④地元新聞紙(下野新聞)1面突出し部分にフルカラーで結核予防週間の告知を掲載した。 ⑤1) 県、県警、市町、教育機関等、医療機関、企業等県内794カ所に結核予防週間のポスター及びパンフレットを配布し、掲示・配布していただいた。 2) 県の健康増進施設「とちぎ健康の森」エントランスに結核予防週間のポスター掲示をするともに、パンフレットを設置して配布した。
群馬	6/25	1カ所	37 (婦人会、 支部)	4点 200セット	1) ぐんま男女共同参画センター 2) リーフレット・ボールペン・マスク・封筒組み合わせ 3) 結核予防週間前後に新聞広告を2紙(9/21朝日新聞群馬版、9/24上毛新聞)に掲載した。
埼玉	9/1～30	4カ所	40	5点 1,000セット	街頭募金活動:9/22 1) 場所:JR大宮駅西口(西口)において、結核予防を呼びかけながらの募金活動を実施した。天候不良により午後2時に予定していたJR川越駅西口(東口)での活動は中止となった。 2) 配布資材:「支部製作のポケットティッシュ」、「複十字シール運動リーフレット」、「小型シール」、その他2点を1セットにして配布。 3) 懸垂幕の掲示:9/1～30 埼玉県庁本庁舎に結核予防週間を呼びかける懸垂幕を掲げた。当支部(埼玉県衛生研究所)敷地内に、結核予防週間を呼びかける横断幕を掲げた。 パネルの掲示:9/1～30 県庁内渡り廊下に、結核予防に関するパネル、ポスター等を掲示し、結核予防を呼びかけた。 ポスターの掲示:県内医療機関、市町村、保健所、教育委員会等に結核予防ポスターを掲示していただき、広く県民に結核予防を呼びかけた。 9/22街頭募金当日に産経新聞社が取材に訪れ、9/23朝刊に活動の様子が掲載された。9/23埼玉新聞朝刊にも結核予防週間に関する記事が掲載された。
千葉	9/24	1カ所	47	5点 1,800セット	①千葉そごう前広場とJR千葉駅東口に、結核予防に関する広報資材の配布(複十字シール運動リーフレット・結核の常識2016・衛生グッズ2点・講演会案内1点)を配布し複十字シール募金活動を行った。募金の呼びかけとともに市民吹奏楽団によるシール運動キャンペーンソング等の演奏や、千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」、当財団マスコットキャラクター「けんしー」がキャンペーンを盛り上げた。 ②当総合検診センター入口に結核予防週間を案内する懸垂幕を掲示
東京	9/24	1カ所	①6	4点 1,500セット	①9/24 本部・支部と東京都地域婦人団体連盟及び東京都合同で、秋葉原UDXサボニウス広場で、のぼりを立てボールペン、風船、複十字シールリーフレット、長引くせきは赤信号(小冊子)をセットしてシールばうやとともに通行人へ配布しPRを行った。併せて東京都の事業(健康診断を受ける機会が少ない若者を対象とした無料結核検診)と共催し、検査結果の即時判定が可能な胸部X線(医師が同乗)を配置して検診を行い、結核予防週間の周知を行った。 ②都立東久留米総合高校の文化祭である「しらざき祭」において、養護教諭の先生と保健委員の皆さんが中心となって、募金箱を持って校内を回り、シールばうやの着ぐるみ・リーフレット・グッズ等を活用して、結核予防の呼びかけや募金運動を実施していただいた。2日間とも天候に恵まれて「しらざき祭」は盛況に終わり、2日間で13、214円の募金に協力いただいた。
神奈川	①9/17 ②9/24	2カ所	①25 ②10	5点 1,500セット	①小田急電鉄本厚木駅コンコースならびに駅前広場にて、神奈川県婦連及び厚木市婦人会ならびに神奈川県支部職員共同でリーフレット、結核の常識2016、小型・シールばうやシール、傷絆創膏を駅利用者の方々に配布した。 ②JR藤沢駅コンコースで藤沢市民まつりにブースを出す藤沢保健所職員と共同で、結核・他感染症予防等の配布物に、リーフレット、結核の常識2016、小型・シールばうやシールを入れ、また別途配布した。
山梨	①9/24 ②9/28	2カ所	17	①4点 1,500セット ②2点 3,000セット	①1) 配布場所:小瀬スポーツ公園 2) 「STOP! 結核」の広告入りカットパン、事業団ティッシュ(「STOP! 結核」を印刷)、花の種、結核の常識、シールばうやボールペン(募金者に配布)、複十字シール(募金者に配布) 3) 「いきいき山梨ねりんピック」に出席し、当日の来場者に向け結核予防週間の告知と結核予防を呼びかけた。あいにく午後から雨となり来場者が減ってしまったが、午前中は多くの皆様が当支部のブースに足を運んでくださった複十字シール募金の趣旨にも賛同いただき20名の方が募金にご協力くださった。ねりんピックはシニア世代の体育大会なので、参加者の多くが結核に関心等を寄せており、活発な普及啓発を行うことができた。 ②1) 配布場所:JR甲府駅 南口構内 2) 結核予防会作成 複十字シールカットパン 3,000部 ・事業団ティッシュ(「STOP! 結核」を印刷)3,000部の2点をセットにして配布。〔「結核の常識」は学生、年配者を中心に上記セットとともに約500部配布〕「STOP! 結核」のロゴを印刷した事業団ティッシュと複十字シールのカットパンをセットにして通勤、通学の方々を中心に3,000部配布した。当日は、県健康増進課並びに各婦人会の方々のご参加をいただき、結核予防週間の告知、結核予防の呼びかけ等の活発な街頭キャンペーンを展開することができた。今回配布した結核予防会本部作成のカットパンは非常に好評で、学生の方々にも興味を持って受け取っていただいた。 3) 街頭キャンペーンの様子は、山梨日日新聞社・YBS山梨放送・UTY山梨放送の県内報道機関各社から取材を受け、当日の昼帯、夕方の県内ニュースで報道、翌日の山梨日日新聞紙面に記事が掲載された。
新潟	10/16	1カ所	5	4点 1セット	①新潟市中央区万代の商業地、万代シティにて新潟市の主催で行われた「市民健康福祉まつり」(今年で19回を迎える)にて募金活動 ②ポスター(3種)・リーフレット(2種)小型シール・その他ノベルティ(風船・ボールペン・カットパン等)を配布

都道府県	日付	開催数	係員合計	資材点数・セット数	報 告〔1〕場所・2〕活動内容・3〕その他
長野	① 9/30 ② 9/23 ③ 9/3、9/8、9/16 ④ 9/1～30	① 2カ所 ② 3カ所 ③ 4カ所	① 27		① 1) 松本駅周辺、長野駅周辺 2) ポケットティッシュ、ポケットカレンダー、カットパン、リーフレット、ボールペン（募金者）、のぼり旗掲示 ② 信濃毎日新聞 長野県全県版 全面広告 ③ 毎日新聞 長野県版 広告 ④ a) JR長野駅ホーム 階段脇ステッカー、階段ステップ広告 b) JR松本駅・塩尻駅・上諏訪駅・茅野駅 J・ADビジョンの実施 c) 支部検診車への単体広告
富山	9/22	1カ所	19 (うち 婦人会12名、 パフォーマ1名、 支部5名、 飛び入り1名)	4点 500セット	1) 富山市総曲輪グランドプラザ付近 2) 結核の常識2016・複十字シール、カットパン及びボールペンを配布し、結核予防を呼びかけた。 3) パルーンパフォーマによる路上パフォーマンスを行い、お子様連れの家族にPRを図った。
石川	9/25	1カ所	11	7点 500セット	① 金沢市内「しいの木迎賓館」広場及び正面 2) 結核の常識2016、複十字シール運動2016チラシ、県内の検診日程問い合わせ一覧、シールぼうやのシール、シールぼうやの絆創膏、ティッシュ
福井	9/25	1カ所	17	5点 1,500セット	1) ラブリーパートナーエルバ 2) 結核の常識2016、複十字シール運動リーフレット、ポケットティッシュ、思い当たるあなたは結核かもチラシ、複十字シール 3) 募金活動
静岡	9/24	1カ所	18	4点 1,300セット	1) アビタ静岡店 2) 結核の常識・複十字シール運動リーフレット・ポケットティッシュ・絆創膏をセットし配布。結核パネルの展示、子どもにも風船を配布。「シールぼうや」と一緒に啓発活動を実施。
愛知	9/17～18	1カ所	2	4点 496セット	1) あいち健康プラザ 2) 結核の常識2016、シールぼうやのシールシートを配布。結核予防週間標語を掲載したカレンダー（10月～3月）を作成。その用紙に当日その場で写真を撮影してプリントアウトしたものを配布。
岐阜	① 9/27 ② 9/26～10/2	1カ所	6	3点 550セット	① 1) ショッピングセンターイオン岐阜店マース21（岐阜市） 2) パンフレット「結核の常識2016」、リーフレット「複十字シール運動」、啓発物品（ウェットティッシュまたはバンドエイド）、シールぼうやの風船を配布。 ② 1) パネル展示 県民ふれあい福祉会館（岐阜市） 2) パンフレット「結核の常識2016」、リーフレット「複十字シール運動」を配布。
三重	9/25, 28, 10/16	2カ所	1	3点 200セット	1) 9/25、9/28に三重テレビ放送において、結核予防を呼びかけるテレビCMを放映した。 2) 結核予防の普及啓発を図るため、県庁1階県民ホールにポスター、リーフレットによる普及啓発を行った。 3) 県、市町、医療機関、小中高等学校などの関係機関・団体に、結核予防ポスター、リーフレットを配布して啓発活動を行った。 4) 10/16に亀山市で開催の「あいあい祭り」に参加して、結核予防資材を配布して啓発活動を行った。
滋賀	① 9/23～29 ② 9/24 ③ 9/1～30	① 3カ所 ② 1カ所 ③ 3カ所	① のべ17 ② 15	① 2,292点 ② 863点	① 1) 9/23 JR草津駅東口2F歩行者用デッキ 9/27 JR南草津駅東口1Fロータリー 9/29 JR大津駅北口 出入口付近 2) 資材袋（結核の常識2016、複十字シール運動リーフレット、結核予防啓発ティッシュ） 3) 支部職員が結核予防週間の周知・結核予防啓発の呼びかけとともに資材袋の配布を実施した。 ② 1) イオンモール草津1Fレストランコート 2) 資材袋（結核の常識2016、複十字シール運動リーフレット、結核予防啓発ティッシュ）、複十字シール封筒、複十字ボールペン 3) 支部職員、県、滋賀県地域女性団体連合会会員がイオンモール草津内において結核予防啓発の呼びかけとともに資材袋の配布を行った。また、結核パネル展示とクイズ、シールぼうやと写真を撮ろう！コーナー、シールぼうやとのじゃんけん大会も併せて実施し結核の知識定着を図るとともに、複十字シール運動とは何か？ということを知っていただく機会にもなった。会場全体にシールぼうやラミネートや結核啓発ポスターの掲示、シールぼうやパンチングの設置を行った。 ③ 1) 草津駅・栗東駅・手原駅における結核予防啓発デジタルサイネージ広告の掲載 2) 9/1から9/30までの1カ月間、草津駅・栗東駅・手原駅においてデジタルサイネージ広告を掲載し、県民の皆様に対する結核予防啓発活動を実施した。
京都	9/27	3カ所	70	4点 2,000セット	1) 京都駅前中央改札口広場、京都タワー付近、烏丸七条交差点付近 2) 複十字運動リーフレット（本部作成）、複十字シール（小型）、マスク（京都府作成）、ティッシュ（京都市作成） 3) ① 9/30、京都府民・市民を対象に講演「結核の予防とがんを考えるつどい」を開催。近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター感染症研究部 霞口一成先生に「まだまだ忘れてはいけない病気ー結核ー」、京都府立医科大学大学院内分・乳腺外科学 阪口晃一先生に「正しい乳がん検診と予防」をそれぞれ講演いただいた。 ② 京都市地下鉄の中吊り・市バスに結核予防週間・シール募金のポスターの掲示。建物内及び検診車に結核のポスターを掲示し、結核予防週間の周知及び結核検診の受診を呼びかける。
大阪	① ② 9/26, ③ 9/28, ④ 8/1, 23, 9/5	4カ所	50	8点 1カ所あたり 60～32,000個	① 1) 「平成28年度 結核予防推進大会」 9/26 門真市民文化会館ルミエールホール小ホール（門真市） 2) 配布物 4点・254セット（結核の常識2016：254部・エコバッグ：254個・ポケットティッシュ：508個・うちわ：254枚） 内容：（結核のない街、大阪をめざして）と題して、当法人と（一社）大阪エフボランティアネットワークとの共催で、府内地区女性と府内一般住民を対象に開催。シールぼうやが受付や会場内で出迎える。・研修報告 大阪エフ会員「結核予防関係団体中央講習会に出席して」・ミニ講話 大阪府守口保健所 田邊雅章所長「感染症について（感染症対策と結核）」・レクチャー 当法人 増田國次理事長「結核って・・・？」参加者254名。 ② 1) 「肺年齢測定体験会」 9/26 門真市民文化会館ルミエールホール小ホールホワイエ（門真市） 2) 配布物 4点66セット（COPDパンフレット：66部・ポケットティッシュ：66個・うちわ：66枚・オリジナルタオル：66枚・COPDパンフレット：66枚） 内容：スパイロメーターを使って呼吸機能検査を行った。肺年齢測定を行うことにより、慢性閉塞性肺疾患（COPD）の予防を呼びかけた。参加者66名 ③ 1) 全国一斉複十字シール運動街頭キャンペーン 9/28 JR天王寺駅中央コンコース付近（大阪市天王寺区） 2) 配布物 4点（ポケットティッシュ：4,000個・うちわ：250枚・オーキュバン500枚・シールぼうやや小型シール3,000枚） 内容：当法人職員と大阪府地域女性団体協議会会員の総勢18名とシールぼうやが、観光客等で賑わうJR天王寺駅で結核予防啓発グッズを配布し、結核予防の普及啓発及びシール募金の協力を呼びかけた。 ④ 「結核予防週間・複十字シール運動キャンペーン」 1) 8/1・23・9/5 当法人正面前（大阪市中央区） 2) 配布物 3点（ポケットティッシュ：300個・うちわ：120枚・エコバッグ：60個） 内容：「結核をなくそう」ののぼりを設置し、啓発グッズを配布することで結核予防週間の周知と複十字シール募金の協力を呼びかけた。 ⑤ 1) 大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市に、結核の常識：19,270部・ポスター：3,435部・ポケットティッシュ：32,000個・うちわ：470枚を配布。 2) 大阪府内各医師会にポスター：8,015枚を配布。 3) 大阪府教育委員会に結核の常識2,432部・ポスターを各2,432部配布。 4) 当法人相談診療所・大阪病院・塚高島屋内診療所に、結核の常識：500部・ポスター：70枚・ポケットティッシュ：8,000個・うちわ500枚を配布。外来入院患者や健診受診者へ普及啓発を行った。 ⑥ 1) 当法人ホームページにおいて、本年度のグッズ、各行事の写真を掲載し結核予防週間の周知を行った。 2) オリジナルパネルを作成して当法人正面玄関前に設置。結核予防週間の周知を行った。
兵庫	① 9/27 ② 9/28	2カ所	① 17 (うち 婦人会9名) ② 19 (うち 婦人会10名)	2点 2,000セット	① 1) JR姫路駅（中央コンコース） 2) 啓発資材（ティッシュ1,000個、姫路市提供ティッシュ200個、棒付き風船50個）の配布 3) 視覚資材：のぼり、シールぼうや人形、結核予防週間ポスターの活用、スタッフのベストとタスキ着用による啓発、募金の呼びかけを行った。 ② 1) 三宮駅周辺（マルイ前～センター街入口） 2) 啓発資材（ティッシュ1,000個、神戸市提供マスク200個、棒付き風船50個）の配布 3) 視覚資材：シールぼうや人形、結核予防週間ポスターの活用、スタッフのベストとタスキ着用による啓発、募金の呼びかけを行った。
奈良	結核予防週間中	6カ所	25	1～4点 500セット	① 9/26～9/30 奈良県庁内で、県結核担当課職員とともに募金活動を実施。複十字シール・リーフレット・啓発ティッシュ等を配布し、啓発活動を行った。 ② 各保健所で、募金活動を実施。啓発ティッシュ等を配布し啓発活動を行った。 ③ 奈良県健康を守る婦人の会の各支部で募金活動を実施。啓発活動を行った。 ④ 新聞広告での啓発（奈良新聞）。
和歌山	9/28	2カ所	21	4点 1,300セット	1) 和歌山駅前、南海和歌山市駅前 2) 結核予防週間パンフレット「結核の常識2016」、複十字シール運動パンフレット、ちふれ「あぶら取り紙」、和歌山県結核相談支援センターリーフレットの4点をセットにして配布した。
鳥取	① 9/17, ② 9/20, ③ 9/24	3カ所	49 (内婦人会 37名)	4点 3,000セット	1) バードハット・倉吉パープルタウン・イオン日吉津店の県内3カ所 2) 複十字シール、複十字シール運動リーフレット、ポケットティッシュ、絆創膏等を配布して鳥取県の結核状況をPRした。

都道府県	日付	開催数	係員合計	資材点数・セット数	報 告〔1〕場所・2〕活動内容・3〕その他
島根	①9/27, ②9/28	2カ所	20	2点 2,000セット	1) ①ゆめタウン斐川・スーパーセンタートライアル出雲斐川店, ②JR松江駅前 2) チラシ、マスクをセットにして配布した。今年も各保健所主体の活動に参加する形となった。 3) 支部独自の活動として、結核予防週間中にラジオCM(20本)を行った。
岡山	9/17	1カ所	22	6点 3,809セット	1) JR倉敷駅 2) ポケットティッシュやリーフレットを配布しながら、結核予防の啓発活動を行った。併せて募金の呼びかけを行い、募金に協力いただいた方には複十字シールや「結核の常識」、シールぼうやボールペン等入りのクリアファイルを差し上げた。シールぼうやも加わり、いっしょに活動を盛り上げた。
広島	10/15	1カ所	10 (女性会1名)	5点 1,000セット	広島県県市で行われた第8回呉市健康の日「ウォーキング大会」において広報資材配布及び複十字シール募金を呼びかけた。
山口	①10/16, ②9/1～30	1カ所 (市庁舎)	15 (うち 婦人会 12名)	2点 500セット	①美祿市大嶺町の美祿市役所で開催された「第31回福祉の市」において、支部用のブースを設置して結核の基礎知識等のパネルを展示し来場者にアピールした。また、会場内でシールぼうや着ぐるみや風船、たすき、幟旗を活用して、結核予防婦人会とともに、パンフレット結核の常識及び複十字シール運動用リーフレットを配布して結核と結核予防の普及啓発を行い、募金への協力を呼びかけた。 ②9/1～9/30までの間、県内7カ所に設置されている、山口県太陽光発電インフォメーションシステムで結核予防週間についての情報掲示を行った。 ③①のキャンペーン実施については、事前に県内各報道機関30社に対して報道依頼を行った。山口ケーブルテレビより取材の依頼があり、県結核予防婦人会の協力を得て、複十字シール募金が始まった経緯、結核は今でも油断できない感染症であることや県内で行った結核の普及啓発活動などについて取材に応じた。10/18～19に「まちかどニュース」の「まちかどPR」のコーナーで約4分間放映された。(放映回数6回)
徳島	9/12	1カ所	8	2点 730セット	「健康を考える県民のつどい」をあわぎんホール(徳島市)において開催し、徳島県、徳島県婦人団体連合会の協力を得て、リーフレット、結核の常識2016を配布するとともに募金活動を実施した。
香川	9/30	1カ所	4	4点 300セット	イオンモール高松で結核予防婦人会香川県支部(香川県婦人団体連絡協議会)と協力し、結核予防のポケットティッシュや啓発資材を配布した。同時に、結核の常識のパネル展示を行い、来場者に結核について知っていただくことが出来た。
愛媛	9/27	1カ所	9 (うち 婦人会 3名)	5点 500セット	1) 街頭募金 松山市湊町5丁目よつ高島屋前の北側歩道(松山市駅北口)付近 2) 広報資材 ポケットティッシュ・リーフレット・小型シール・カレンダー・風船 3) ・募金にはクジ引きにて複十字シール運動の啓発グッズをプレゼント。(Tシャツ・ボールペン・クリアファイル・ピンバッジ等) ・広報資材の配布 ACジャパンポスター・結核の常識2016を県下市町、学校、婦人会等に配布。また、県医師会を通じて県下の病院・診療所等へポスターの掲示協力を依頼。
高知	①9/24, ②10/2	2カ所	①40 ②25	①6点 200セット ②6点 1,000セット 風船800個	①無料検診…当支部において毎年しており、結核やがんについてのパンフレット等を配布。新聞折込チラシで募集し、多数の場合抽選で受診者を決定する。 ②全国一斉複十字シール運動キャンペーン…高知市中心街で本部を中央公園北口に置き、婦人会や県の協力を得て帯屋町周辺(アーケード内等)で、結核やがんについてのパンフレット、ポケットティッシュ、カットパン、風船等を配布。本部にパネル、のぼり、シールぼうやの立看板等を設置し、血圧測定を実施。マイクで複十字シール運動への協力を繰り返し訴え、街頭募金活動を賑わした。高知県観光キャラクター人形「坂本龍馬」、「乙女姉やん」、「まち・ゆうき君」の着ぐるみを着用し、子どもたちにも喜んでもらい、キャンペーンを盛り上げた。キャンペーンの様子が当日のニュースで放映された。ラジオやテレビ、新聞で事前に告知をしてキャンペーンをPRした。
福岡	9/22～30	3カ所	49	6点 2,500セット	①結核予防週間キャンペーン 1) 日程: 9/22 11:00～16:00 場所: 大丸福岡天神店 エルガーラ・パサージュ広場 主催: 公益財団法人福岡県結核予防会、福岡県結核予防婦人会 後援: 福岡県、北九州市、福岡市、大牟田市、久留米市 2) 結核予防パンフレット「結核の常識」、複十字シール運動趣意書、複十字シール運動3つ折りリーフレット、小型シール、ポケットカレンダー、マスクを袋詰めし、2,500セット配布 3) 胸部レントゲン検査、健康相談、血圧測定、体脂肪測定、骨密度測定、肺年齢測定を無料で実施。 医師2名による結核予防ミニ講演。シールぼうや(着ぐるみ)登場。結核予防に関するパネル展示。バルーンアート配布。複十字シール運動。 ②結核予防週間広報資材の頒布 1) 官公庁、金融機関の県内各支部・支店及びその他関係事業所に対して…結核の常識 38,182部、ACジャパン支援キャンペーンポスター 5,453部 ③結核予防週間広報活動 福岡ヤフオク!ドームの球場内大型ビジョンにて結核予防週間及び全国一斉結核予防週間キャンペーンの開催について放映 ④懸垂幕の掲示 福岡結核予防センターに9/24～30まで懸垂幕を掲示
佐賀	9/22	2カ所	24	6点 2,000セット	当協会職員と県婦人会及び県庁職員の合同で県内ショッピングセンター2カ所(イオン佐賀大和店・ゆめタウン佐賀)において、無料血圧測定やパンフレット・複十字シール・ティッシュ・風船等を配布しながら募金の呼びかけを行った。
長崎	①9/29, ②9/24～30	2カ所	①7 (うち 婦人会 1名)	①5点 800セット ②結核の常識 100セット パネル6点	①1) 長崎市浜の町パルナード観光通り 2) 結核の常識、リーフレット(長崎県作成)、カットパン、マスク、複十字シール運動リーフレットをセットにして配布 3) 結核の基礎知識や、複十字シール運動についてのパネルを(事業団作成)展示した。 ②1) 佐世保市役所本庁からすこやかプラザ連絡通路にて、結核の基礎知識パネル6点と、併せて佐世保市の結核の現状をパネルにして展示して頂いた。また、結核の常識やリーフレット(長崎県作成)を自由に取るように配置して頂いた。
熊本	9/25	1カ所	18 (うち 婦人会 8名)	7点 400セット	1) 熊本市荒尾市「あおシティモール」 2) 結核の常識、複十字シール運動パンフレット、複十字シール、結核予防週間広告入りうちわ(当支部作成)、複十字シール図案付ポケットカレンダー(当支部作成)、がん検診啓発に関するチラシ(2種類)を配布。 2) 啓発パネルの展示、肺がん・乳がん模型の展示、無料結核検診、健康相談、キーホルダー作り、風船配布(結核予防週間広告入り)。
大分	①9/14, ②9/26, ③11/12～13	3カ所	①11 ②25 ③10	①3点 300セット ②4点 500セット ③3点 400セット	①豊後大野市三重町トキハインダストリーにおいて、豊後大野市地区婦人会が、複十字シール運動キャンペーンを行い、シール、リーフレット等を配布して募金活動を実施した。 ②トキハ本店前及び中央商店街において、結核予防婦人会、大分健康づくり支援課、大分市保健所と共同で街頭啓発活動を行うとともに、シール、リーフレット、カットパン等を配布して募金を呼びかけた。 ③中津市中央公園で開催する第22回中津・下毛JAフェアにおいて、中津市地区婦人会とともに複十字シール運動キャンペーンを行い、シール、リーフレット等を配布し、募金を呼びかけた。
宮崎	①9/10, ②9/19, ③9/24	3カ所	19 (うち 婦人会 4名)	1,200セット	1) ①宮崎市内中心部 若草通「街市」 ②イオンモール延岡 ③イオンモール都城 2) 広報資材「結核の常識」、複十字シール運動リーフレット・複十字運動のロゴ入りボールペンの配布。 3) ・テレビCMにて結核予防週間をPRした。 ・新聞社5社に広告を掲載した。 ・情報誌2社に広告を掲載した。
鹿児島	9/29	1カ所	18	3点 2,000セット	鹿児島中央駅構内において、県結核成人病予防婦人会及び県職員の協力を得て、複十字小型シール・複十字シール運動リーフレット・ポケットティッシュを配布した。また、「結核予防週間」「複十字シール運動」等のポスター、のぼり旗、結核に関するパネル等を掲示し、複十字シール運動の周知を図るとともに街頭募金活動を行った。
沖縄	9/26～30	7カ所	55	10点 1,000セット	1) 県庁ロビー・各保健所内(6カ所)・大型スーパーのイベント広場にて 2) パネル・ポスター展示 資料配布…結核普及啓発リーフレット 結核の常識2016 ポケットティッシュ 3色ボールペン 3) 街頭キャンペーン…9/28 実施(協力機関名: 沖縄県・沖縄県健康づくり財団・沖縄県結核予防婦人連絡協議会・那覇市保健所) 県民への結核予防普及啓発チラシ配布、街頭募金等を行った。
本部	①9/28, ②10/1～2, ③10/9	6カ所	①8 ②3 ③2	①5点 86セット ②3点 600セット ③3点 200セット	①本部のある水道橋ビル前において、シールぼうやの着ぐるみとともに街頭キャンペーンを実施。シール運動リーフレット、複十字シール、結核の常識、COPDパンフレット、風船をセットにして配布し、結核予防週間ポスター、複十字シール運動ポスターをパネルにして街頭に展示した。 ②グローバルフェスタJAPAN2016(お台場)において国際協力に興味のある一般の方を対象に、結核予防週間や国際協力のポスター・パネル展示、リーフレットを配布してシール募金活動を行った。 ③都立篠崎公園において江戸川区民まじりの開催に伴い、江戸川区保健所の職員とともにシール運動リーフレット、結核の常識、COPDパンフレットのセットを配布し、結核予防の普及啓発を行った。

平成28年度都道府県知事表敬訪問報告 続報

8月1日の複十字シール運動開始日に各都道府県では、各県知事を各県結核予防婦人会長ならびに支部役員等が訪問し、複十字シール運動への協力をお願いしました。今回は、前号No.370に続いて、7支部の報告です。

●東京都支部



9/5、東京都福祉保健局笹井技監、矢内感染症危機管理担当部長、杉下感染症対策課長、深澤感染症対策課課長代理を東京都地域婦人団体連盟谷茂岡会長他役員が訪問。石館理事長より今年度の複十字シール運動の趣旨、募金の現状等を説明し、都内の日本語学校や警察署など、近年の結核発生状況について意見交換を行い、9/24秋葉原での街頭キャンペーンへのご協力をお願いした。

●神奈川県支部



8/15、黒岩知事を支部役員、神奈川県地域婦人団体連絡協議会松尾会長他役員らが訪問。山本理事長より表敬訪問の趣旨を説明。松尾会長より複十字シール募金運動や結核の状況などを説明した。昨年結核予防全国大会が当県で開催されたこともあり、知事より結核予防へのご理解と活動への激励をいただいた。

●高知県支部



8/19、高知県健康政策部山本部長を稲垣常務理事、井上会長(高知県健康づくり婦人会連合会)、他婦人会役員が訪問。井上会長より複十字シール運動の趣旨及び結核の現状や県内の募金状況について説明を行った。山本部長からは、複十字シール運動に対するご理解と励ましのお言葉をいただいた。この後、県担当課のご協力のもと、県庁・警察本部等を巡回し募金活動を実施した。

●福井県支部



9/23、江川理事長と宇野会長(福井県健康を守る女性の会)他役員が櫻本健康福祉部長を訪問。事業の趣旨、結核の現状等を説明したうえで、複十字シール運動の意義・目的・現状を説明し、普及啓発の強化を各関係機関に対して働きかけていただくよう協力を依頼した。

●愛知県支部



8/3、堀井副知事を山川理事長、村上会長(愛知県地域婦人団体連絡協議会)らが訪問。結核の現状、愛知県における募金の状況などを説明し、複十字シール運動への協力をお願いした。

●島根県支部



田儀会長(島根県連合婦人会)から複十字シール運動の重要性について説明。知事からも「結核は過去の病気ではない。県としてもしっかりと運動に協力していく」とのお言葉がありました。

●広島県支部



8/1, 澤井会長（広島県地域女性団体連絡協議会）が声明文を読み上げ、月村会長（広島市地域女性団体連絡協議会）よりシールを湯崎知事へ手交。結核の現状を説明し複十字シール運動への協力をお願いした。

猛暑日が続く暑い最中、県のご担当者との調整を含め、無事、知事表敬訪問が行えましたことを、支部及び婦人会の皆様誌面上ではございますが、御礼申し上げます。



【訂正】

前号（No.370）P10から始まる「平成28年度都道府県知事表敬訪問報告」の中の肩書きに誤りがありましたので、訂正いたします。（誤：新里県議会副議長、正：新里県議会議長）

●沖縄県支部（県庁）



8/1, 平良沖縄県結核予防婦人連絡協議会会長、比嘉理事長他役員で浦崎副知事、新里県議会議長を訪問。副知事より「昨年同様県内の募金額が全国トップであることは県民の結核撲滅に対する気持ちの表れであり、行政も一緒に取り組みたい」と力強いお言葉をいただいた。県議会議長から「普及啓発をともに推奨しましょう」と協力をいただいた。

●沖縄県支部（県議会）



★トピックス★

今年度の大臣表敬訪問は、9月13日（火）に実施した。厚生労働省は福島健康局長、島田課長補佐、保田係長、進藤氏の4名。当会は工藤理事長、小林募金推進部長、前川事業部長。公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会からは、木下会長、山下事務局長が出席した。

この表敬訪問は、全国一斉の統一行動で、結核予防会と全結婦連が連携して大臣及び各都道府県知事を表敬訪問することになっている。

初めに理事長から、国内では2020年までの結核罹患率10万対10以下の目標に向けての取り組みと世界の、とりわけアジアの結核をなくさない限り日本の結核もなくならない、という視野を持って結核対策に取り組んでいくとの発言があった。

今年婦人会長に就任した木下会長からは、決

意表明と婦人会活動について発言があった。

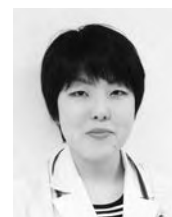
健康局長からは、結核の低まん延化へ向けて、困難なこともあると思うが、少しずつ進めたい。多剤耐性菌への取り組みが世界レベルで進んでいるが、その中でも結核は大切であると認識している。普及啓発については役所の取り組みは弱く、民間（婦人会）の方が効果的で今後もご協力いただきたいとの話があった。

また2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されるため、たばこの受動喫煙防止についても取り組んでいきたいとのことであった。

最後に3月に開催された第67回全国大会（神奈川県）で採択された決議宣言文に要望書を添えて、事業部長より提出した。



結核予防全国大会での決議・宣言文を提出



公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構

倉敷中央病院 薬剤部 佐藤 可奈

I 岡山晴れ晴れDOTS手帳

岡山県では2013年4月より、“岡山晴れ晴れDOTS手帳（以下DOTS手帳）”が導入された。DOTS手帳には活動性結核用、潜在性結核用の2種類がある。DOTS手帳の特徴は、行政主体で導入に至ったことから県内統一した書式であること、また医師、薬剤師、保健師など各職種が記載できるようになっているため、情報共有のツールとしての役割も担っていることである。DOTS手帳には、治療計画、検査日、副作用症状、毎日の服薬記録など様々な内容を含んでおり、この1冊で治療開始から完遂までを支援できる。

II 当院でのDOTS運用方法、効果

DOTS手帳を契機とし、結核病棟を有しない倉敷中央病院（以下当院）でもDOTS運用を実施することとなった。そこでまず、当院のDOTS運用方法について、医師、看護師、薬剤師、保健師が協議し各職種の役割を明確化し（図1）、業務の効率化を図った。薬剤師の役割は、服薬確認・服薬指導・DOTS手帳記載・副作用確認である。病院内の薬局でDOTSを実施することにより医師との連絡を迅速に行え、また検査結果をもとに副作用確認を行うこともでき、これら2点は薬局DOTSにおいて利点となっている。

地域DOTSにおいては多職種連携が重要な点であり、当院では薬剤師が連携窓口としての役割も担っている。特に保健師と緊密に連携をするため、DOTS担当薬剤師を1名定め、情報共有を実施している。患者

の服薬状況や副作用情報を共有することで自己の判断による服薬中断や副作用重篤化を回避するための対策を講じることができている。必要に応じて、保健師訪問を予定日よりも早めて頂いたり、薬剤師が患者へ服薬及び副作用の確認のための連絡を取るなど、患者個別の対応を実施している。

III DOTS運用に対する問題点

当院は、病床数：1,166床、外来1日平均患者数：2,748人/日、入院1日平均患者数：1,049人/日、外来1日平均処方箋枚数：1,338枚/日、入院1日平均処方箋枚数：784枚/日、薬剤師数：96人（2016年4月）である。大規模病院である当院はスタッフの数が多く、DOTSに関わる外来担当薬剤師だけでも25名在籍しており、この中には入社2年以内の薬剤師も14名含まれている。薬剤部内では、DOTS服薬指導の質を均一化できない、一貫した対応が難しいという問題点が考えられた。

IV 対策

そこで対策として2つのことを行った。①結核の知識向上を目指した勉強会を実施した。②DOTS服薬指導の標準化及びDOTS関連業務の統一化を目指した薬剤師用指導ツール（以下指導ツール）を作成した。指導ツールは、初回面談チェックシート、2回目以降のフローシート、DOTS手帳運用の流れ、DOTS手帳記載方法の4種類を用意した。指導ツールを使用することにより、知識や経験が浅い若手の薬剤師でもベテラン薬剤師同様に質の高い服薬指導が実施できることが特徴である。例えば初回面談ツールは指導漏れがないようにチェックシート形式（図2-1）とし、このチェックリスト内に指導すべき内容を全て記載することにより若手薬剤師でも効率的にDOTS服薬指導ができるようにしている。また2回目以降に使用するフローシート（図2-2）は、患者毎

図1 DOTS運用方法



図 2-1 指導ツール（チェックシート）

初回面談時の説明～チェックリスト～

☐ **DOTS セットを渡す。**（指導室に準備してある。）
 回収袋（5 枚）、冊子（5 ページ）、受診からお薬をもら流れ、副作用チェックシート

☐ **手帳への記載をする。**（患者さんが持参しているので受け取る。）
 ・活動性結核の場合は P3 薬剤氏名 ●●●●、P7 処方薬の一包化（なし）P10 の院内薬局 服薬支援の方法
 （手帳）（定装）その他（添付）

☐ **回収袋の使い方について説明する。**（※イスコチンの袋に患者 ID を記載する）
 ・毎回受診時には持参していただく。
 ・リファジン、エサンブール、イスコチン、ピラマイド、クラビットそれぞれの袋に空シートを入れていただく。（不要な袋は渡さない）
 ・飲み終わったシートのみ回収袋に入れ、残った薬は薬袋に入れて持参していただく。

☐ **服薬維持の重要性（きちんと飲むことの重要性を説明）を説明する。**
☐ 開封してある冊子を面談時に説明する。自宅でも必ず一度は読んでもらうよう説明する。
☐ 症状がないなどの理由で勝手に自己中止しないように、自己中止による副作用出現により治療が困難になること。
 （冊子参照）コンプライアンスの維持が治療の上でもとても重要であること

☐ **飲み忘れの対応について**→飲み忘れに気付いた時に出来るだけ早く 1 回分を服用。もし通常に飲む時間が近い場合は 1 回分飛ばす。（飛ばした場合は必ず受診時に伝えていただくこと。）

☐ **次回持参して頂くものの確認をする。**（同封の冊子の持参物チェックシートを参照）
 DOTS 手帳、回収袋、副作用チェックシート、残薬（ある場合は必ず）、お薬手帳…必ず持参するように!!!

☐ **副作用について説明する。**（初期症状の説明…視力障害・手足のしびれ・胃腸障害など。詳しくは DOTS 手帳参照 P15）
 薬がだるい、食欲不調、皮膚のかゆみがあればすぐに相談して頂く!!!
 主な症状
 ・リファジン…尿、便、汗などが赤くなるが心配ない旨を説明。コンタクトレンズは不可。
 …食欲不振、下痢、皮膚の痒み
 ・イスコチン…手足の指先のしびれ、関節痛
 ・エサンブール…視力が悪くなる、視力低下、目がぼやむ
 ・ピラマイド…手足の指の腫れ、関節痛、胃腸障害
 ・クラビット…下痢、発疹、皮膚の痒み
 イスコチン、リファジン、ピラマイドは副作用として肝機能障害がある。食欲不調、吐き気、嘔吐、腹痛、全身倦怠感など初期症状を伝える。

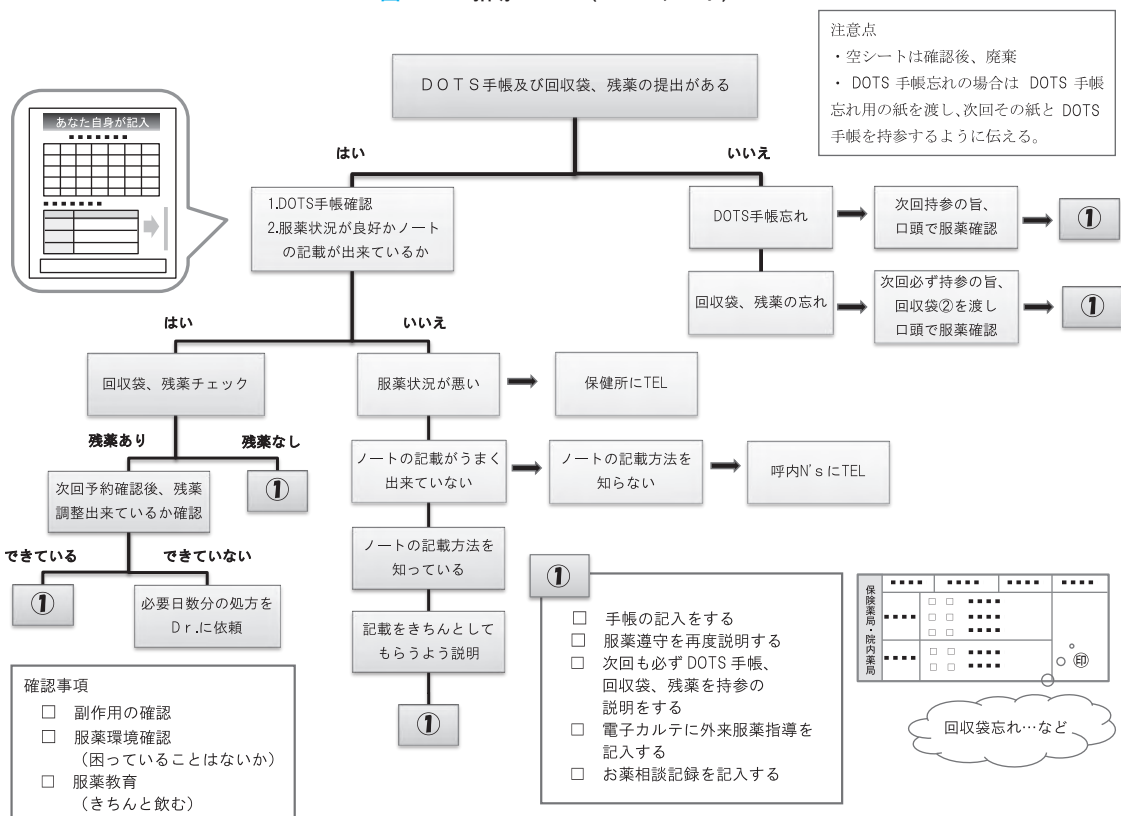
☐ **次回からの薬局における流れを説明する。**（開封している「受診からお薬をもら流れ」を参照）
 1 受診前、持参したものを提出していただく（回収袋、副作用チェックシート記載方法も説明）。
 2 受診前及びお薬をお渡しの際、薬剤師により面談をさせていただきます。

に異なる理解度やコンプライアンスに臨機応変に対応ができるようにフローチャート形式とし問題が生じたときに誰が担当しても一貫した対応が取れるように工夫をしている。そのほか、患者が薬の保管管理がしやすいようにDOTS手帳、空シート回収袋、患者用説明書、薬などを1つのパッケージ内にまとめている。また空シート回収袋には対応する薬剤の写真を記載することで高齢者においても空シート保管をして頂けるよう対策をしている。

V 結果・まとめ

指導ツールを使用することで、特定の薬剤師だけでなく全ての薬剤師が一貫したDOTS業務を実施し、一律した対応をとることができている。運用開始から2016年6月までに自己中断患者0名、服薬完遂患者41名を達成している。服薬状況は2015年8月から2016年2月までに服薬完遂された活動性結核患者において、99-100%服薬遵守で終了された。今後はさらに副作用モニタリングに対し薬剤師が主体的に関われるよう薬剤師による受診前面談も実施したいと考えている。

図 2-2 指導ツール（フローシート）



平成28年度結核予防技術者地区別講習会実施報告

○講習会テーマ

- 合同会議前編・後編(結核予防会)「結核に関する特定感染症予防指針の見直しに向けた今後の結核対策」
合同会議(厚生労働省)「最近の結核対策の動向と今後について」
医師講義「結核診療 ―最近の動き―」
診療放射線技師講義「低まん延化に向けた対策ポイント・医療被ばくの対応」
保健師・看護師等講義「結核のない世界をめざして～患者に寄り添う総合的なケアをめざして」

○開催地・講師一覧

開催地	日 程	担 当 講 師
北海道	8月29日(月)～8月30日(火)	合 同 講 義: 末永麻由美 (結核研究所対策支援部企画・医学科主任) 医 師: 伊藤 邦彦 (結核研究所研究主幹) 保 健 師: 浦川美奈子 (結核研究所対策支援部保健看護学科科長代理) 診療放射線技師: 星野 豊 (結核研究所対策支援部放射線学科科長) 厚 生 労 働 省: 島田 秀和 (健康局結核感染症課課長補佐) 厚 生 労 働 省: 保田奈津子 (健康局結核感染症課係長)
東北 (福島県)	7月7日(木)～7月8日(金)	合 同 講 義: 太田 正樹 (結核研究所対策支援部長) 医 師: 吉山 崇 (複十字病院結核センター長) 保 健 師: 浦川美奈子 (結核研究所対策支援部保健看護学科科長代理) 診療放射線技師: 星野 豊 (結核研究所対策支援部放射線学科科長) 厚 生 労 働 省: 島田 秀和 (健康局結核感染症課課長補佐) 厚 生 労 働 省: 保田奈津子 (健康局結核感染症課係長)
関東・甲信越 (長野県)	7月28日(木)～7月29日(金)	合 同 講 義: 加藤 誠也 (結核研究所副所長) 医 師: 伊藤 邦彦 (結核研究所研究主幹) 保 健 師: 浦川美奈子 (結核研究所対策支援部保健看護学科科長代理) 診療放射線技師: 星野 豊 (結核研究所対策支援部放射線学科科長) 厚 生 労 働 省: 島田 秀和 (健康局結核感染症課課長補佐)
東海・北陸 (岐阜県)	7月14日(木)～7月15日(金)	合 同 講 義: 末永麻由美 (結核研究所対策支援部企画・医学科主任) 医 師: 御手洗 聡 (結核研究所抗酸菌部長) 保 健 師: 永田 容子 (結核研究所対策支援部副部長) 診療放射線技師: 星野 豊 (結核研究所対策支援部放射線学科科長) 厚 生 労 働 省: 島田 秀和 (健康局結核感染症課課長補佐) 厚 生 労 働 省: 進藤 雄太 (健康局結核感染症課結核対策係)
近畿 (和歌山県)	7月21日(木)～7月22日(金)	合 同 講 義: 大角 晃弘 (結核研究所副所長) 医 師: 伊藤 邦彦 (結核研究所研究主幹) 保 健 師: 浦川美奈子 (結核研究所対策支援部保健看護学科科長代理) 診療放射線技師: 星野 豊 (結核研究所対策支援部放射線学科科長) 厚 生 労 働 省: 島田 秀和 (健康局結核感染症課課長補佐) 厚 生 労 働 省: 保田奈津子 (健康局結核感染症課係長)
中国・四国 (愛媛県)	8月25日(木)～8月26日(金)	合 同 講 義: 太田 正樹 (結核研究所対策支援部長) 医 師: 伊藤 邦彦 (結核研究所研究主幹) 保 健 師: 永田 容子 (結核研究所対策支援部副部長) 診療放射線技師: 星野 豊 (結核研究所対策支援部放射線学科科長) 厚 生 労 働 省: 島田 秀和 (健康局結核感染症課課長補佐) 厚 生 労 働 省: 保田奈津子 (健康局結核感染症課係長)
九州 (福岡県)	8月4日(木)～8月5日(金)	合 同 講 義: 加藤 誠也 (結核研究所副所長) 医 師: 吉山 崇 (複十字病院結核センター長) 保 健 師: 永田 容子 (結核研究所対策支援部副部長) 診療放射線技師: 星野 豊 (結核研究所対策支援部放射線学科科長) 厚 生 労 働 省: 島田 秀和 (健康局結核感染症課課長補佐) 厚 生 労 働 省: 進藤 雄太 (健康局結核感染症課結核対策係)

北海道地区(北海道)

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課
感染症・特定疾患グループ

主査(結核) 安藤 慎治

平成28年度北海道地区結核予防技術者講習会は、8月29日、30日の日程で札幌市内において開催し、道内の医療機

関、保健所等から約100名のご参加をいただきました。この時期の北海道は例年は過ごしやすい日が続くのですが、今年は8月に次々と台風が上陸する事態となり、交通機関の寸断が繰り返されるなど講師や受講者の移動に影響がでないか、講習会が開催できるか主催者側として非常に不安な状況でした。そのような状況で、来道していただけた講師の方々、ご参加いただいた受講者の皆様に大変感謝しております。

合同会議や三科別講義では、結核予防の基礎知識や最新

情報などを詳細に説明していただき、普段の業務に必要な専門的な知見を深める大変貴重な機会を得ることができました。

また、結核対策特別促進事業の評価・報告では、これまで保健所からの事例報告を行っていましたが、今年度は、前日の講義内容のアウトプットを目的に、グループワークを実施してみました。受講者を9グループに編成し、「地域における関係機関の連携を進めるに当たっての課題について」を討議していただき、代表して3グループに報告していただきました。グループ討議の最初は静かに始まりましたが、討議が進むにつれ白熱し討議時間を急遽延長することになりました。

行政担当者会議では、各自治体の取り組み状況や課題等について情報共有できたほか、結核研究所や厚生労働省の講師の方々にご意見・ご助言をいただき大変有意義な会議となりました。

道としましては、関係者のご協力を得ながらこの講習会が、道内の結核予防に携わる関係者の知識習得や連携推進の場として、より充実したものとなるよう努めてまいりたいと考えております。

最後に、繰り返しになりますが、開催に当たりご指導いただきました結核研究所及び厚生労働省の皆様をはじめ、ご参加いただいた多くの皆様にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

東北地区(福島県)

福島県保健福祉部健康増進課

保健技師 佐藤 明絵



東北地区は、福島県が開催県となり、福島市内にて7月7～8日の2日間開催し、医療・介護・行政機関等から約280名の方々に参加いただきました。

まず、合同及び三科別講義では、厚生労働省及び結核研究所の講師の先生方より結核の基礎から最新の知見までお話いただき、結核対策の初任者からベテランまで幅広い参加者にとって大変有意義な内容となりました。

また、結核対策特別促進事業の報告・評価では、宮城県仙台市より「外国人結核患者等に対するサポート事業について」、当県より「高齢者の結核対策について」、千葉県より「多職種連携によるDOTS推進の取組～薬局との連携、新たな段階から」の発表後、講師の先生方から貴重な御助言をいただきました。東北地区では、新登録患者のうち約7割を65歳以上の高齢者が占めており、今後、多職種と連携をしたDOTSを推進するうえで、大変参考になったことと思います。

次に、行政担当者会議では、移送や高齢施設での接触者

健診等について、議論や情報共有を行うことができ有意義な会議となりました。

最後になりますが、講師の先生方、事業報告者の皆様、また、各県市の結核担当の皆様、そして当講習会に御参加いただきました皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

関東・甲信越地区(長野県)

長野県健康福祉部保健・疾病対策課
感染症対策係

担当係長 丸山 聡



平成28年度関東甲信越地区結核予防技術者地区別講習会は長野県が開催県となり、7月28日、29日の日程で長野市内にて開催しました。

当日は、県内外の医療機関、行政機関等から2日間で延べ205名の方々にご参加いただきました。

合同講義や三科別講義では、結核の基礎から今後の対策まで、職種の実務に即応した貴重な講義をいただき、大変有意義な講習会となりました。

結核対策特別促進事業の報告・評価では、千葉県から「多職種連携によるDOTS推進の取組」、石川県から「ハイリスクグループに対する早期発見・感染まん延防止事業」、山形県から「保健所の結核対策における結核分子疫学の有用性」、それぞれ先駆的な取り組みをご紹介いただき、各地における今後の取り組みの参考になったのではないかと思います。

また、結核行政担当者会議では「IGRA検査」、「VNTR解析」等、結核担当者が日ごろ直面している課題について活発に意見交換を行うことができました。

最後に、本講習会の開催に当たりご指導いただきました結核研究所の皆様をはじめ、ご支援、ご参加くださいました多くの皆様にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

東海・北陸地区(岐阜県)

岐阜県健康福祉部保健医療課
感染症対策係

主事 山本 真奈都



東海北陸地区では岐阜県が事務局となり、7月14日～15日の2日間、岐阜市で開催しました。当日は、県内外の自治体、医療機関等から約300名の方々に御参加いただきました。

開会に当たり、特に「結核対策特別促進事業の報告・評価」の内容を充実するため、結核研究所の先生方の御助言を賜りながら検討し、大阪府「外国人結核患者に対する医療通訳者派遣事業」、愛知県「地域とつくる！高齢者施設の結核対策」、

名古屋市・岐阜県「結核菌VNTR分析の実施状況報告」の報告を選定いたしました。

これらの報告内容は、それぞれ先進的、積極的な取り組みであり、東海北陸ブロックの各自治体の御担当者の皆様にとっても、今後有効な施策を展開していくために、大変参考になるものでした。

最後になりましたが、御多忙の中、御講演いただきました講師の先生方、講習会の詳細にわたり御指導いただいた結核研究所及び厚生労働省の御担当者様、その他開催に当たりに御協力いただいた関係者皆様に対して、深くお礼申し上げます。

近畿地区(和歌山県)

和歌山県福祉保健部健康局
健康推進課感染症対策係

主査 齊藤 典代



近畿地区では和歌山県が開催県となり、7月21日と22日の2日間、和歌山市内で開催し、県内外の医療機関、行政機関等から延べ442名の方々にご参加いただきました。合同講義・各科別講習会では、結核研究所や厚生労働省の先生方から国内外の結核対策の動向や最新の知見等についてご講義いただくとともに、2020年に向けて罹患率10.0以下という目標を掲げ、全国で一致団結した取り組みの必要性を伺うことができ、大変有意義な講習会となりました。

また、結核対策特別促進事業の報告では、今回初めて他ブロックから参加していただいた愛知県瀬戸保健所から、地域とつくる高齢者施設の結核対策、本ブロック内からは、京都市コホート検討会・DOTS大会、和歌山県拠点型結核相談支援センターの活動についての発表をしていただきました。

行政担当者会議では、マイナンバー制度開始に係る番号利用等について、結核集団感染事例の考え方、就業制限などについて、厚生労働省担当官や結核研究所の先生方と自治体担当者が意見交換を行うことができました。

最後に、ご講演及びご指導いただきました講師の先生方、結核対策特別促進事業の報告をご快諾いただきました皆様、開催にあたりご協力いただきました関係者の皆様にご場をお借りして深く御礼申し上げます。

中国・四国地区(愛媛県)

愛媛県保健福祉部健康衛生局
健康増進課感染症対策係

技師 岡本 哲也



中国・四国地区の講習会には、約130名の方々に参加して

いただきました。

合同講義や三科別講義では、結核の基礎や最新の知見など、幅広く分かりやすい丁寧な講義をいただき、参加者にとって大変有意義な講習会となりました。

結核対策特別促進事業等の報告・評価では、愛知県から高齢者施設の結核対策について、倉敷市保健所からDOTS支援について、倉敷中央病院から外来DOTS推進の試みについてそれぞれ報告していただき、喫緊の課題である高齢者の結核対策に加え、保健所と医療機関の連携のあり方に関して、各自治体の今後の取り組みの参考となりました。

行政担当者会議では、公費負担に係る個人番号の取扱い、外国人向けの結核対策など、担当者が日頃直面している具体的な課題や対応方法について、積極的に意見が交わされました。

結びに、御講演並びに御指導くださった講師の先生方、結核対策特別促進事業の報告を快く引き受けていただきました皆様方、開催に当たり御協力いただきました関係者の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

九州地区(福岡県)

福岡県保健医療介護部
保健衛生課感染症係

技術主査 篠原 由紀子



九州地区では、福岡県が担当県となり、8月4日～5日の2日間、福岡市内で「平成28年度九州地区結核予防技術者地区別講習会」を開催し、県内外の関係機関から約250名の方々にご参加いただきました。

合同講義や三科別講義では、厚生労働省及び結核研究所の方を講師に迎え、結核の基礎から最新の知見、各地域の取り組み事例等、幅広く丁寧な講義をしていただき大変有意義な講習会となりました。

結核対策特別促進事業の報告・評価では、山形県衛生研究所からは結核菌分子疫学調査結果の活用が保健所事業にも役立つことを、福岡県粕屋保健福祉環境事務所からは福岡市と連携した外国出生者への結核対策について、福岡ゆたか中央病院からは院内及び外来DOTSの取り組みについて報告していただきました。会場との意見交換や講師陣からの助言は、今後の結核対策の参考になったことと思います。

最後になりましたが、講師の皆様、御協力いただきました関係者の方々に対し心より感謝を申し上げます。

ミャンマーにおける結核対策支援

国立国際医療研究センター

国際医療協力局 医師 野崎 成功真



世界中で一年間に新たに結核にかかる人の約80%を占めることから、WHOは22カ国を結核高蔓延国に設定していますが、ミャンマーはその一つに選ばれています。ミャンマーの保健省にとっても、結核対策は最重要課題の一つでありつづけてきました。このことから、日本は結核を含むHIVエイズやマラリアなどの疾病負荷の高い感染症対策を支援する「JICA主要感染症対策プロジェクト」を、約10年にわたり実施し、ミャンマーの結核対策を支援してきました。私は2013年からの最後の2年間、この主要感染症対策プロジェクトのチーフアドバイザーとして、ミャンマーの結核対策に関わって参りましたので、その経験について書かせていただきます。

効果的な対策実施のための疫学分析支援

ミャンマーの国家結核対策プログラムからの評価が高かったのが、疫学的分析への技術支援です。結核研究所の専門家がプロジェクトの結核部門を担当しましたが、年次会合や半期会合で行われる疫学的分析の支援が、効果的な対策実施につながったようです。特に2009年に実施された結核有病率調査では、専門家が調査デザインなどに技術支援を行いました。この結果から、これまでのWHOの推計よりもおよそ2.5倍の結核患者が潜在的に存在することが示唆され、保健省の政策決定に活用されました。地理情報システム（GIS）の導入研修なども支援してきています。

より多くの患者を、より早期に治療に

高蔓延国に数えられるだけに、ミャンマーにはまだ未治療の患者が多くいます。このことから、プロジェクトでは患者発見の向上に特に注力してきました。プライベートセクターの巻き込みでは、前半は開業医の巻き込み、後半は薬局による患者紹介システムの導入を支援しました。特に薬局紹介は、有病率調査に合わ

せて実施された受療行動調査で、結核様症状のある患者も初期治療に薬局での売薬によっていることが判明したため、プロジェクトでパイロットを実施し、その効果が認められたことから、他の資金を活用した全国展開が進められています。また、まだ医療施設が遠い地域があることや結核への偏見の残るミャンマーでは、コミュニティボランティアの活用は重要で、プロジェクトでは農村部や都市部でのサービスモデルの開発を支援しました。その他、顕微鏡診断施設数の拡大やレントゲンを活用した結核検診と、その読影技術向上支援など、国家結核プログラムの要請に基づき、幅広い技術支援を行ってきました。

感染症対策アドバイザー

プロジェクトは2015年3月に成功裏に終了しましたが、保健省からの要請に基づき、HIVと結核への技術支援を継続するため、2015年11月からは感染症対策アドバイザーとして活動しています。2015年に国連で採択された持続的開発目標では、HIVや結核の流行の終焉がゴールに設定されました。民主化により諸外国からの支援も得られるようになり、対策が加速していますが、少数民族地域での対策など、残された課題も多くあります。引き続き支援を行っていきたいと考えています。🐼



結核患者発見活動の様子

結核との10年におよぶ長い闘い —ミルドレッドさんの場合—

他の人にとって、結核は過去のものであり、もはや自分とは何の関係もなく、気にかける必要もないものかもしれません。しかし、私にとっては、それは最もひどい悪夢でした。

私はミルドレッド・フェルナンド・パンチョ、結核が流行している西太平洋の国、フィリピン在住です。今、34歳ですが人生の内の10年間は結核患者として過ごしました。結核で父を失い、2人の姉妹も結核にかかりました。

2001年11月、私は19歳の会計を勉強する学生で、大学の最後の学期を終える時期でした。年齢も若く、卒業後に何をするかも頭の中にもありました。資格試験を受け、マカティにある大手の会計監査事務所で働くつもりでした。そんな時、病気が私を襲いました。学期が始まる直前になって、私はインフルエンザにかかり数週間の自己治療で熱は下がったものの、咳は市販薬を使用してもおさまりませんでした。その当時、糖尿病による易感染状態であった私の父は、多剤耐性結核MDR-TBの治療を受けていました。父は、私に医者に行くように勧めました。

胸部X線検査により、民間病院の女性の先生は私が結核であると診断しました。6カ月間の継続治療を受けるよう勧められ、私はそれに従いました。先生は、結核の治療中でも勉強を続けられると言いました。ところが、私が大量喀血に見舞われ始めた頃から事態は複雑になってきます。経口薬では咳をするたびに出る喀血を止めることはできず、ついには入院を余儀なくされました。処方薬による治療終了が近づいた頃、先生からはもう良くなっていると聞き胸が躍りました。しかしながら、その後、先生から、あなたはまだ結核なので治療を続ける必要があると言われました。そこで、私は先生の言うことを受け入れ、いつものように全ての検査を予定通りのスケジュールで終えていきました。

結核を思いながらも、私は2002年4月に卒業し、資格試験を受けて2002年10月に合格しました。しかし、結核はまだ治っていませんでした。大量喀血が原因でたびたび入院することとなり、治療が追加されました。2003年3月、父は多剤耐性結核との闘病に敗れました。我が家に帰宅する途中に大量に喀血し、病

院に到着した時にはすでに亡くなっていたのです。

私は、この民間の先生の管理のもと2年間にわたり継続的に抗結核薬の治療を受けましたが、そこでの治療の決定はわずか一枚の胸部単純X線写真に基づいていました。治療に従ったのにもかかわらず、状況は改善しなかったため、私は違う医師を訪ねました。私が結核と診断されてから5年間で4人の民間の先生に診てもらいましたが、4人とも呼吸器科の先生でした。

結核の場合、的確で迅速な検査診断は重要です。私は、最初に結核と診断を受けてから、2年半後に初めて喀痰検査を受けました。まだ結核の診断に対する迅速な検査がなかった頃、少なくとも4カ月間は培養と薬剤感受性試験DSTの結果を待たなければなりませんでした。これらの結果を待っている間、私は休薬を命じられませんでした。私の初めてのDST結果が来たのは、結核治療を開始して3年が経った2004年11月でした。それはイソニアジド(H)に対して耐性を示していましたが、この検査は、私が数カ月前に提出した検体に基づいていました。

私が結果を待っていた4カ月の間に起こったことは、DST結果が意味していることと合致していなかったのかもしれませんが。なぜなら、先生がその結果に応じて薬を調整しても、私の体調は一向に良くならなかったからです。

2005年9月、私の2回目のDST結果は、イソニアジド(H)、リファンピシン(R)とエタンブトール(E)に対する耐性を示しました。決められた通りに治療を受けてきた私のような患者には、その結果はあまりにも絶望的でした。一人の患者として他に何をすべきなのか、もはや全く分かりません。私は希望を失い、結核患者になって以来、主治医からの、かつてあったようなどんな良い知らせも期待しなくなりました。私の友人や同級生たちが青春を謳歌し、夢を追い求めている時、私は家の中にいてこれからの自分の身に起こることに対して何も考えることができずにいました。

3回目のDST結果が出たのは2006年の5月で、イソニアジド(H)、リファンピシン(R)、エタンブトール(E)、ピラジナミド(Z)とストレプトマイシン(SM)に対する耐性を示していました。最後に診てもらった民間に勤める女性の先生には、もはや処方できる抗結

核薬はありませんでした。彼女は私に熱帯病財団社 TDF (Tropical disease foundation, Inc) を紹介しました。そこは、当時グローバルファンドの助成により、多剤耐性結核の治療が無償で受けられるところでした。

私の住んでいた地域から、18カ月に及ぶ治療を受けるため、マカティへ引越し2007年1月より治療を開始しました。私のDST結果はHRZE, SM, カナマイシン (KM), レボフロキサシン (LVFX) とシプロフロキサシン (CPFX) に耐性を示していました。2001年の時点では薬剤感受性結核であったものが、2005年にはMDR-TBに変化し、そして今、超多剤耐性結核XDR-TB (Extensively Drug Resistant Tuberculosis) へ進展したのです。

私は、ヘルスワーカーの前で服薬するために、週に6回、18カ月の間クリニックに通わなければなりませんでした。耐性結核患者が通常経験する薬剤による副作用は避けられませんでした。通常起こる悪心と頭痛に加えて、さらに重篤な副作用である電解質異常、薬剤性肝障害、不可逆性の聴覚障害を経験しました。治療が原因で具合が悪くなり、時には結核ではなく薬の副作用によって殺されるのではないかと感じることもありました。

XDR-TBの治療終了までの間、TDFは私に患者のために働く機会を与えてくれました。私は、財務部の下にあるグローバルファンドの薬剤耐性結核 (PMDT) のプログラムの一員となりました。私はその時、この上なく幸せな気分でした。やっと会計の資格を使うことができたのです。

2008年8月に18カ月間の治療が終了し、自分の思い描いていた生活を送り始めました。高く舞い上がり、良い人生を送ることができると思った丁度その時、治療後の初の検診で、そうではないことを告げられました。2009年3月、XDR-TBを再発。私は他の治療を1サイクル受けなければなりませんでした。先生は、この病気から私を救えるという約束はできないとのことでした。なぜ私がこんな目に合うのか全く理解ができませんでした。「本当に単なる結核なのか?」「6カ月で治療できる病気のはずだったのに。どこでどう間違ったのか?」「私はもうすぐ死んでしまうのだろうか?」そんな思いが心の中を駆け巡りました。

私はXDR-TBの臨床試験に登録し、6カ月の間、病院で隔離されて過ごしました。その後、私は肺の手術



2015年世界結核デーでの一コマ。左が筆者。右は結核が縁で知り合った夫のスチュアート。

を受け、さらに2カ月間入院しました。次いで18カ月間、私は通院しながら内服治療を継続しました。XDR-TBの再発治療は26カ月間に渡り、2011年5月に治療終了を宣言されました。現在、治療を終えて5年目になります。今は何をしているかって?

私は現在、MSH (Management Sciences for Health) のフィリピン支局で、経理係として働いています。そして、TDFで私の看護をしてくれたスチュアートと結婚し3年目となり仲睦まじく過ごしています。私に残された結核の最後の痕跡は、肺の外科手術の傷跡と、そして、抗結核薬が引き起こした不可逆性の聴覚障害のために、今でも使用している補聴器です。

私の話は、長期におよぶ辛い結核との闘いであり、誰にも一度でも経験して欲しくありません。結核患者であることの苦痛は、決して治療やその副作用に限られることだけではなく、社会の疾患に対する差別もその一つです。私自身、一人の結核患者として差別された経験を、痛みを持って分かち合ったことがありますし、そのような悲しい経験からくる痛みは、時には薬の副作用よりも、より我慢を強いられるものです。

長く病気と闘ってきた私でさえ、再び病気の犠牲者になることがあります。私は結核が治った5年後に、再びこの病気にかかった人を知っています。誰ひとりとして結核から免れることはできず、また、空気感染する病気であるということはクロスボーダーであることを意味します。この二つの結核の側面が、私たち皆が国際的な結核との闘いに加わるための十分な理由となり得ます。私たち一人ひとりが疾患についての知識を深め、症状が出現したらすぐに検査を受けるよう努力することから、始めようではありませんか。

結核の真実—それは、私たちとは決して無関係ではなく、誰にでも起こりうることなのです。🐼

(訳：国際部 末谷里奈、岡田耕輔)

英国の院内感染対策を垣間見て

結核予防会 介護老人保健施設保生の森施設長
新山手病院第一診療部第二内科長

木村 幹男

結核予防会 新山手病院感染対策室室長代理

高田 修嗣

はじめに

英国での医療のほとんどは、国民保健サービス（NHS）の傘下にある家庭医（GP）や病院を介して行われている。そこでの理念は、全国民が等しく良質な医療を受けられることであり、医療内容の改善が必要な場合、具体的に目標を定めて国を挙げて取り組んでいる。そのため近年では、国民のNHSおよびその病院などに対する満足度は高まっているとされる。筆者らは今回、ロンドンの教育病院の感染管理部門を訪問する機会を得たが、院内感染二大疾患に対する英国の対策を調べるにつけ、英国の医療制度そのものにまで興味が広がることになった。

英国におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）菌血症

MRSAは黄色ブドウ球菌に属し、病原性自体は通常の黄色ブドウ球菌（MSSA）と変わらないが、多くの抗菌薬に耐性であり、治療に難渋して重症化や死亡に至ることがある。MRSAは抗菌薬使用の増加とともに増えて、入院患者が感染や定着などで保菌し、病棟環境も汚染される。MSSAと同様に皮膚、口腔や鼻腔の粘膜などに定着し、手術部位感染、カテーテル感染、膿瘍、肺炎などを生じるが、特に菌血症は危険な病態である。

MRSAは1961年に英国で世界で初めて発見され、1970年代より世界的に入院患者での増加が始まった。英国では1990年代初頭に、黄色ブドウ球菌感染症のうちMRSAによるものが2%程度であったが、2000年代に入ると40%超を占め、MRSA菌血症は2003年に7,684例に達した。そこで2004年には、2003年度（日本と同じく4月～翌年3月まで）と比べて2008年4月までに、MRSA菌血症を60%減少させる目標を立てた。2005年には、それまでのMRSA菌血症の義務的届け出以外に、症例数だけでなく患者詳細なども届け出る

強化サーベイランスを開始し、オンラインでの即時届け出となった。そして保健省主導で、手指衛生、保菌者の隔離、院内環境清掃、抗菌薬適正使用その他の対策が強化され、2007年度には4,451例に減少した。それ以降も、減少は徐々に鈍化しつつも年毎に減少を続け、2014年度には800例に減少したが、2015年度に819例と微増した。なお、入院時MRSA保菌スクリーニングについては、2009～2010年にかけて、それまでのハイリスク者を主な対象としたものから、待機的入院および緊急入院症例の全てを対象とすることになった。

黄色ブドウ球菌菌血症のなかでのMRSAの率は、2003年度の40%から2015年度の7.2%へとほぼ一直線に下降した。MRSA菌血症の感染巣については任意の報告であるが、2007年度でカテーテル／ラインが報告例の25.6%であったが、2015年度では15.5%に低下した。なお、2014年に保健省は、前述の全入院症例対象のMRSA保菌スクリーニングから、ハイリスク症例を対象としたスクリーニングに戻している。

2013年度のNHSプランにおいて“MRSA菌血症のゼロ・トレランス”として、全ての病院で発生をゼロにする目標が掲げられた。実際この時期に、6分の1のトラストでの報告がゼロとなった。また同時期には、MRSA菌血症の全てにPost Infection Review (PIR)の提出が義務づけられたが、これは、個々の症例において患者詳細や治療歴その他を詳しく検討し、回避可能であったかどうかを厳しく問うものである。英国でのMRSA対策は、“不可避な最小限度の症例”以外の発生をゼロにすべく、新しい段階に入ったと言える。

英国におけるクロストリジウム・ディフィシル（CD）感染症

CDは健常小児の多くが腸管に保有し、健常成人の一部も保有している嫌気性菌である。通常は腸管内で

病原性を発揮しないが、特に抗菌薬を使用した場合、他の細菌が死滅して本菌が優勢となり、病原性を発揮する。また環境条件に強い芽胞が形成され、院内環境で長期生存可能であり、入院患者などに経口的に侵入して感染や定着を生じる。MRSAと同様に入院患者、特に高齢者、免疫不全者などでリスクが高い。感染すると、比較的軽度の病態である水様下痢のみならず、偽膜性腸炎、中毒性巨大結腸症、腸穿孔など危険なことも起こりうる。MRSAと同様、治療に用いる抗菌薬は非常に限られている。

英国においては以前からCD感染症の任意届出が行われていたが、届出数は1990年より毎年増え続け、2007年に50,000例超に達した。そして、2004年からは65歳以上の症例の四半期毎の集積届出であったが、2007年より2歳以上の症例の即時届出強化サーベイランスとなった。同年に保健省が主導する感染対策が開始され、その年（55,498例）をピークとして毎年急激な減少を示し、3年間で60%超の減少をみた。しかし、2013年度（13,362例）以降はほぼ横ばい、あるいは微増を示している。院内感染（入院後3日以上経過してからの発生）と“市中感染（それ以前の発生）”に分けてみると、2007年度頃には院内感染の方が多かったが、近年では“市中感染”の方が2倍近く多い。“市中感染”には真の市中感染以外に、病院以外のケアホームなどでの感染も含まれると思われる。

英国のCD感染症対策では、2008年よりNHSトラスト（後述）毎に毎年の目標値を設定し、症例数が目標値を超えた場合、超えた症例数に応じて金銭的制裁を課している。以前には目標値を超えた1例につき50,000ポンドであったが、今は10,000ポンドに下げられている。また、個々の症例でケアのミスがなかったか、すなわち回避不可能であったか、あるいはケアのミスがあったか、すなわち回避可能であったかの判断を行い、後者の回避可能例が目標値を超えた場合にのみ金銭的制裁を課すこととした。その評価のための検討項目は多数挙げられているが、簡略化して表1に示す。

ロンドン大学病院（UCLH）での状況 —2014年度—

ロンドン大学病院（University College London Hospitals = UCLH）とは、今回訪問したUniversity Col-

表1 NHSにおけるCD感染症患者チェックリストの要約

- ・CD感染症のリスク因子はあるか？（プロトンポンプ拮抗薬、炎症性腸疾患、消化管手術／腫瘍、他）
- ・便の観察や下痢の認識に問題がなかったか？
- ・感染源となる患者があったか？あったとすれば、いつ隔離が行われ、いつ便検査を行ったか？
- ・感染源となる患者の隔離期間は？隔離の解除は何を指標に行ったか？
- ・今回のCD感染症診断の前3カ月間における患者の居住場所は？（自宅、病院、ケア施設など）
- ・以前にもCD感染症の診断がついたことがあれば、その詳細は？（適切に治療がなされたかなど）
- ・過去3カ月間の抗菌薬投与は？それは適切であったか？
- ・今回の抗菌薬治療は？それは適切であったか？
- ・今回のCD感染症の発生に関係する場所の清掃に、問題はなかったか？
- ・組織レベルでの問題はなかったか？（教育、コミュニケーション、記録など）
- ・組織において、下痢患者の対応プロトコルはあるか？

lege Hospital（UCH）を中心とし、他の複数の病院とともに一つのNHSトラストを形成する複合体であり、全体で約1,100ベッドを有する。英国では、予算の獲得から配分、事業計画やアクションプラン設定、自己評価、会計報告、情報提供などはトラスト単位で行い、院内感染管理についてもトラスト毎にまとめて公開する。以下に、UCLHから出された2014年度の院内感染に関する報告書を基に述べる。

院内感染とされるMRSA菌血症は3例、MSSA菌血症は23例みられた（後者のトラスト内部での目標値は27例未満）。2006～2014年度の期間で経年的にみると、MRSA菌血症は年を追う毎に減少していたが、MSSA菌血症では前半の数年と比べて後半の数年で軽度の減少が見られたのみである。入院時MRSA保菌スクリーニングにおける陽性率は月により異なるが、0.73～2.27%であった。

CD感染症は109例報告されたが、うち74例は回避不可能であり、35例が回避可能と判定された。後者の目標値は71例未満であったので、目標を達したと言える。他のトラストと比べて発生が多いが、悪性腫瘍患者などを多く扱うためと考えられる。回避不可能例の殆どは抗菌薬が必要で、UCLHの基準を遵守した抗菌薬処方および投与が行われた。回避可能例については、要因として感染源症例の隔離の遅れ（2時間超え）、便観察チャート不完全、便採取の遅れ、環境清掃不十分などが挙げられた。

緑膿菌菌血症は最近やや減少傾向で、大腸菌菌血症は殆ど横ばいであった。2010～2014年におけるICUでの緑膿菌菌血症の中で、カルバペネム耐性菌の年度毎

割合はほぼ10%前後であった。手術部位感染 (SSI) サーベイランスでは、術後30日間 (埋め込み人工物がある場合には1年間) 追跡を行うが、SSI発生率は、手術件数が年間2,000例超と最も多い帝王切開で0.89% (国レベルでは3.77%)、膝関節置換術および大腿骨頸部修復術ではゼロであった。ただし、大腸や小腸の手術では国レベルでの感染率より高かった。

University College Hospital (UCH) 訪問

UCHの玄関を入ると直ぐのところに消毒剤ディスペンサーが設置されていたが、視覚に訴えるステッカーも貼られ、全ての人に手指衛生遵守を求めている (図1)。病棟へ通じる扉に設置された青色の把手を掴むと、自動的に手に消毒剤が噴出される仕掛けになっていた。この開発にはNHSの専門家も関係し、実際に英国の病院で多く使われている (図2)。病棟の入り口近くに掛けられたホワイトボードには、各病棟における手指衛生の遵守率や、直近のMRSA菌血症とCD感染症の発生日が書き込まれていた。すなわちその時点で、これらの感染症がどれだけの期間発生していないかを示している。また院内感染ではないが、転倒、褥瘡、薬剤に関するインシデントについても、

直近の発生日が示されていた。病院では新入職者の全員を対象に感染管理のトレーニングを、また若い医師を対象に抗菌薬処方についてのe-learningなども行っている。

病室の扉には、分かりやすい絵を多用して感染防御策の種類を示したパネルが掛けられ (図3)、前室には消毒剤ディスペンサー、エプロン、手袋、環境クロスなどが1個所に整然と配置されていた。環境清掃には塩素系消毒薬でなく、過酢酸を含む消毒剤を用いているが、これは一般細菌 (MRSAを含む) の他、結核菌や非結核性抗酸菌、芽胞 (CDを含む)、ウイルス、真菌を殺滅でき、汚れがあっても効力を発揮することである。

環境清掃については、入室患者の病原体の危険度によって赤色 (CD、ノロウイルス、耐性菌、他)、琥珀色 (インフルエンザ、結核、他)、緑色の3段階に分け、清掃範囲や用いる環境クロスの種類が異なる。また個室の使用基準に関しては、英国のACDPハザード分類、伝播経路、伝播の程度、薬剤耐性、院内発生、他の患者の感受性、患者が病原体を飛散させる程度などを基にした評価ツールを作成している。病棟のパソコンキーボードはUCLHのスタッフも開発に関係した感染

図1 玄関を入ると直ぐに、手指衛生を行うべきことが示されている。



図2 青い把手 (矢印) を掴んで引くと、自動的に消毒剤が噴出される。



図3 個室ドアには、該当する感染経路別予防策（この場合、接触感染予防策）が絵で示されている。



対応のもので、キーとキーとの間などの凹みがないフラットな構造を有し、環境クロスなどで簡単に拭くことができる。また、一定時間後使用した後に点灯して清拭を促す機種もある。

考察

一時期、英国でのMRSAはヨーロッパの中で最悪な状況であったが、近年ではピーク時に比べて9分の1以下に大きく減少した。また、CD感染症もピーク時の約4分の1に減少した。もちろん、国全体ではこれらの院内感染が大きく減少したが、地方により、あるいは診療部門により増加している所もあることや、MRSA菌血症は減少したがMSSA菌血症は減少していないことなどの問題もあるが、院内感染管理における大きな成果を挙げたことは確かである。CD感染症については、先進国でもいまだにコントロールできていない国が多い。

英国政府が、「疾患の治療のために患者が入院することで、新たに院内感染にかかることは、一人でもあつ

てはならない」と述べているごとく、政府が強力にコミットし、NHSおよびその病院や診療所、患者や家族も含めて、国中で徹底した院内感染対策を行った成果であろう。目標に到達しない医療機関に対しては、金銭的制裁さえ行った。UCHでも見たごとく、各病院では視覚に訴えるステッカーやパンフレットを作成し、病棟スタッフのみならず、患者や面会家族にも働きかけて、全体で院内感染対策に取り組んできた。UCHLHが作成した患者向けパンフレットには、「スタッフが貴方を触る前に手洗いをしたかどうか不明であれば、スタッフに聞いてみて下さい」とまで書かれている。英国の医療の特徴として公開と透明性が挙げられるが、1990年代半ばに同国で、牛海綿状脳症（いわゆる狂牛病）から伝播したと思われる変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の患者が発生し、国民の間に食に関する不安が高まったときには、特にこのことが重要視された。そして院内感染についても、国民を対象に丹念な情報公開を行ってきた。

わが国での医療においては医療機関および医療者の自由度が高く、それぞれの考え方が尊重されていると言える。実施した医療行為に対する健康保険からの支払いで査定される可能性はあるが、外部から医療内容の具体的目標設定を強いられることはない。わが国では英国のNHSの様に、いわば中央集権的施策を行うことは不可能に思える。一方、わが国の国民医療費の4割近くは公費で支払われていることからすると、国や地方公共団体も医療の内容に関与する権利があるとも言える。もちろん英国の様な施策をするのは、関係部署において多くの人員を増やし、強力な指導力を発揮する専門家の配置も必要である。しかし、今回述べた英国における院内感染の取り組みは、わが国における将来の医療を考えるうえで、おおいに参考になるであろう。

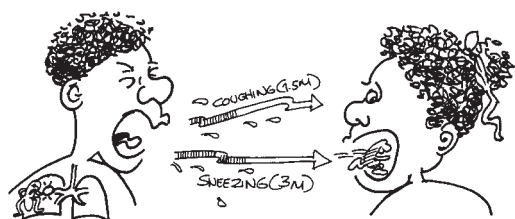
謝辞

本調査は、日本医療研究開発機構 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業「わが国における熱帯病・寄生虫症の最適診断治療体制の構築（代表者：宮崎大学 丸山治彦）」の研究費によった。なお、UCH訪問にあたっては、UCHLHのMyriam Reidy氏およびBernadette Carroll氏より多大な協力を得た。☺

結核ラボ国際研修(結核菌検査コース)

結核予防会
結核研究所 前ラボ・コース・ディレクター

藤木 明子



出典：TB MICROSCOPY by Akiko FUJIKI

結核感染伝播源

結核は空気中に浮遊する結核菌を吸い込むことによって起きる感染症である。WHO結核専門委員会（9回報告1974）は結核対策の基本を「…痰の中の結核菌が塗抹検鏡で見出されるほど多量の排菌者を早期に発見し、その治療により感染伝播現の環を断ち切ることである。故に細菌学的サービスの中でも塗抹検鏡検査が優先される」と明快に示し結核対策戦略は結核ラボ（結核菌検査）重視へ舵をきった。



鏡検検査は排菌者発見の第一歩

結核研究所はJICAと委託契約を結び、1975（昭和50）年に結核菌検査コースを開設した。開設40年を超えた現在、2015（平成27）年までの研修修了者は59カ国330人に及んでいる。

本稿では、入職以来コース担当者としてそれなりの奮闘努力を重ねてきた（？）つもりのラボコース取り組みの一端を思いつくまに記してみたい。尚、開設以来33年間のコースの変遷やその成果については、“結核 Vol. 83, No. 6: 475-479, 2008藤木明子, 加藤誠也” に詳しい。

コース（通称ラボコース）の実践

コースでは、一定レベルの資質・立場にあることを絶対要件として、上級ラボ従事者や医師を対象に実践的な結核対策における結核ラボのリーダー養成を目指している。従って細菌学的知識や技術のみならず、検査室運営・監督・評価法、塗抹検査精度管理法、人材育成の為の教授法等運営面に関する教科にも力が注がれる。臨床検査ではなく結核対策における塗抹検査の優先性・重要性やラボの指導者として不可欠な検査運営の重要性に対する研修員の意識改革から始められる。

研修期間は開設初期の頃はおよそ4カ月であったが、現在は2カ月、授業は月曜から金曜の午前9時半から午後4時までである。カリキュラムは基本的に午前に講義、午後に実習やワークショップが組まれ、施設見学を課外授業として加えている。共通語は英語である。授業スタイルは講師主導型の座学より参加者自身が考え、参加者間で討議し、体験や共同作業を通して発表する参加型セッションに重きが置かれ、およそ全カリキュラム中の7割を占めている。コースの性質上実習の比重は大きく、とりわけ塗抹検査技術の習熟は重要な教科である。技術の修得には基本の反復が必須であるが各自の改善すべき欠点は異なる。その欠点を個々の研修員に客観性のある情報として提供し、それを基に研修員と共に改善を目指す。この様な評価の伴った技術習熟法には優れたファシリテーターが不可欠で、その役割は大きい。

ティーチングスタッフには、研究所内部スタッフと外部依頼講師をWHO、厚労省、研究所、大学、民間会社などから協力を得ている。それぞれの分野における専門家で、国際協力の経験豊富な講師を招いた贅沢な授業は、「指導者養成コース」の主旨にふさわしい



評価の伴った塗抹検査技術実習

コースで独自に開発された評価の伴った塗抹技術習得法は、毎回各自の技術習熟度が図表上にヴィジュアル化され、手技の改善点や向上が具体的に示される。これは研修員自らの技術達成目標設定に役立ち、やる気を十分に引き出す方法である。

内容になっている。紙面の都合上全ての講師の先生方をご紹介出来ないが、戦後物資の乏しい環境を克服するためにL-J培地に何度も改良を加え編み出した小川培地の開発者、小川辰次先生の講義は創意工夫の重要性と共に感動と尊敬を持って迎えられた。また、実際の結核病変臓器標本を見せながら行われた岩崎龍郎先生や岩井和郎先生の結核病理学は研修員に強烈なインパクトを与えた。結核免疫学はある程度の基礎知識なしには理解してゆくことは難しいはずであるが、戸井田一郎先生によるこの講義は何故か毎年研修員全員から高評価が得られている。おそらく講義中に研修員の理解度を素早く汲み取り、その時々に応じて自ら白板にイラストを描きながら噛み砕いた話しぶりやその速度が聴講する側の呼吸に合っていたのかもしれない。カリスマ性のある講師の一人であった。この様に魅力溢れる印象的な講師の先生方は枚挙にいとまがないが、今や多くの講師は定年のため現役を退かれたり、鬼籍に入ってしまったことは残念である。

教材開発

当時、実践的で分かり易い現場向けの技術書は皆無であった。授業で使用する教材は、要領よくまとめられた内容であることが重要であり、厚いだけの内容教材は決して研修員達には好まれず活用されない。また、多数種の教材を配布するよりは、目的内容を満たした



顕微鏡基礎授業

世界の顕微鏡業界を席巻しているオリンパス、ニコン、ツァイス社からエンジニアを講師に招き、顕微鏡の構造・操作・維持等一連の顕微鏡の基礎知識を徹底的に学ぶ。更にオリンパスやニコン社の工場を訪問し製造工程に触れることは顕微鏡により親しみ良い機会になっている。

1つの教材をきちんと理解させる方が实际的で効果も大きい。コース経験を重ねるに従いこの思いは確信に変わった。そして教育背景、仕事上の経験、コミュニケーションのための英語力は様々である研修員達に背中を押されるように、研修員目線の基礎技術教則本開発の取り組みが始まった。

平易な英語表現、多数のイラスト、見やすいページ割り付け編集に心掛けたのはそのためである。英語表現、内容のチェックには、研修員や国際的に結核分野の現場経験豊富な専門家により貴重な助言や手助けがあった。喀痰塗抹検査を皮切りに培養・同定・薬剤感受性検査、塗抹検査鏡検訓練法及び塗抹標本外部精度管理法等の技術書などが開発された。これらは国際的な好評を得て英語以外にもアラビア語、インドネシア語、ウルドゥ語、クメール語、タイ語、トルコ語、ネパール語、モンゴル語、ビルマ語、ベンガル語、ロシア語等の多言語に翻訳され世界各地で使われている。

また、共同研究者として山田博之研究員を得て人工痰が開発され、臨床喀痰材料に依らない安全で精度の高い鏡検訓練パネルスライド教材作成が可能になった。このことはWHOの薦める質の高い塗抹検査の技術統一化に貢献し、DOTS戦略成功に結びつく鍵となった。

研修員滞在寸描

未来の結核ラボリーダーの精鋭たちは清瀬の研究所に集結し厳しい研修を受ける。通常の滞在は研究所に併設された研修宿舎での共同生活である。教室内同様、共に泣き、笑い、時には憤慨、喜び……、彼らの生活周辺はホームシックや自国では決して行わないであろう自炊生活に耐えながらも実ににぎやかである。週末の息抜きは決まって秋葉原通い。安い電化製品販売店などは尋ねればたちどころに教えてもらえる。日本まるごと全部を買って帰りたい、と言うほど「お買い物」には目がない。

コース開始時期は多少のずれはあるものの晩秋から冬季時期に実施され雪に触れる機会がある。南国から来た研修員達にとっては夢のような世界であり、うっとり眺め、子供のように嬉々として駆けずり回る。はしゃぐ彼らに足元に気を付けるよう注意する傍から思い切り尻餅なんてざらである。それでも愉し気である。

コースでは研修分野に対する関心や理解を深めるために教室を出た訪問視察の機会がある。訪問先はその時々々の事情により変わるが、広島を見せずして日本でのコース開催の意義はない、とコース運営具体化に尽力した初代研修担当者であった高橋昭三先生の強い精神が現在も受け継がれ、広島は外せない訪問地になっている。世界唯一の被爆地、広島県内の医療施設や原爆資料館訪問は京都訪問より研修員達の最大の関心事で、ハイライトプログラムになっている。必ず何人か

の研修員は沈痛な面持ちで原爆資料館から出てきたものである。

ある年の視察では熱帯病対策の成功例として沖縄を訪問。訪問後、浜辺に出た際、海の無い内陸国、モンゴルの研修員にセブ島からの研修員が海を教授し、生まれて初めての海に触れる機会へ誘導した。モンゴルの研修員は恐る恐る海水を舐め、無邪気に海と戯れる姿にセブ島からの海の教授は誇らしげであった。世界には多様な民族がいることを実感する一瞬であり、この様に教室内では見られない研修員の姿を垣間見ることがある。

やがてコース修了時期が迫るとまるごと日本を買って帰りたい強者たちは最後の買い物に忙しい。結果、帰国準備は荷物計量器と部屋の頻繁な往来とともに始まる。30キロオーバー、40キロオーバーと屈託なく報告してくる。「エエーッ」と驚愕する我々を尻目に、お得意の「ノープロBLEM」。万感の思いを込めて送り出す我々のセンチメンタリズムなんて吹き飛ばしてしまう毎年繰り返される変わらぬ風景である。

桃李満天下

結核高蔓延国の現場に合った、より効果的な研修には絶えず新しい課題が生まれており、その時々々の国際的なニーズにより教科やその実施内容は進化している。コース担当者はそのニーズに応えるため常にティーチングスタッフの発掘や教材開発等を心掛け、



技術入門書の開発

イラストの多い平易な言葉による単純明快な内容はコース仕様技術書となり、長く研修員に愛用されている。開いて思わず見入ってしまう絵本の様な体裁の技術入門書は、国際的に好評を得て世界各地で使われている。



雪と戯れる

南国から来た研修員達にとっては夢のような世界でありうっとり眺め、子供のように嬉々として駆けずり回る。はしゃぐ彼らに足元に気を付けるように注意する傍から思い切り尻餅なんてざらである。それでも愉しそうである。

教科トピックの選択や授業内容に創意工夫を重ねながら質の高いコース確立を目指している。

コース開設から40年経た2015（平成27）年現在、参加した研修員は59カ国330人である。ともすると参加者数のみで研修効果が評価されがちである。しかし、参加した研修員の一人一人は単なる一人ではなく、「一粒の麦」として、各自の国で結核対策の核としてその力を存分に発揮していることを国際学会やプロジェクト支援の出張先等でよく目にしているところである。このコースの誇ってよいことの一つとして、他の国際研修コースでしばしば聞かれる研修終了帰国後によりよい処遇を求めて他の分野に転じる人は殆どなく、元の職場で結核対策の仕事を続けている。また、コース修了者達からファシリテーターレベルに達した人材も育ち、毎年このコースのファシリテーターとして招聘出

来るまでになり、よりきめの細かい研修の戦力になっている。

帰国後、かつての中国の研修員から「優れた内容と伝統を持ち、『桃李満天下（世界中に優れた教え子達が居る）』のコースで学べたことを誇りに思う」と感謝された手紙の言葉が今も印象に残る。🐼



出典：Helping Health Workers Learn by D. Werner and B. Bower

授業スタイル
見て実践して考えながら学ぶ

59カ国 330名 結核菌検査コース研修員受入実績 (1975年－2015年現在)

ヨーロッパ地域 (EUR) 2カ国 2名	
アゼルバイジャン	1
ウズベキスタン	1

アフリカ地域 (AFR) 16カ国 54名	
エチオピア	1
ガーナ	2
ケニヤ	8
コートジボワール	2
コンゴ民主主義共和国	2
ザンビア	11
ジンバブエ	2
スワジランド	3
タンザニア	11
トーゴ	1
ベナン	2
ボツワナ	1
マラウイ	3
南アフリカ	2
リベリア	2
レソト	1



アメリカ地域 (AMR) 10カ国 18名	
アルゼンチン	1
コロンビア	1
ジャマイカ	1
チリ	1
ハイチ	1
パラグアイ	2
ブラジル	2
ペルー	6
ボリビア	2
メキシコ	1

東地中海地域 (EMR) 9カ国 58名	
アフガニスタン	17
イエメン	19
イラク	1
エジプト	6
サウジアラビア	1
スーダン	2
ソマリア	3
パキスタン	8
パレスチナ	1

東南アジア地域 (SEAR) 9カ国 99名	
インド	1
インドネシア	23
スリランカ	3
タイ	22
ネパール	16
バングラデシュ	15
ブータン	1
ミャンマー	17
モルジブ	1

西太平洋地域 (WPR) 13カ国 99名	
韓国	1
カンボジア	19
サモア	1
シンガポール	1
ソロモン諸島	1
中国	6
日本	17
バブアニューギニア	6
フィジー	1
フィリピン	33
ベトナム	1
マレーシア	4
モンゴル	8

(※ 地域はWHO分類による)

結核菌検査コース桃李満天下

およそ6割がアジア地域（WPR, SEAR地域）からの研修員で占められている。世界の結核蔓延状況からみると受け入れ地域別にみる割合は妥当といえる。2015（平成27）年までの研修修了者は59カ国330人に及んでいる。



仲村英一先生を偲んで

仲村 英一 先生

元財団法人結核予防会理事長
平成28年6月30日逝去 享年84歳

ご 略 歴

昭和31年 東京大学医学部卒
昭和32年 茨城県衛生部に出向
昭和37年 厚生省大臣官房統計調査部
昭和47年 公衆衛生局企画課特殊疾病対策室長
昭和48年 同 難病対策課長
昭和50年 環境衛生局食品衛生課長
昭和52年 公衆衛生局結核成人病課長
昭和53年 社会局老人保健課長
昭和54年 保険局医療課長
昭和56年 医務局国立病院課長
昭和57年 大臣官房統計情報部長
昭和60年 保健医療局長
昭和62年 健康政策局長（平成2年退官）
平成14—21年 結核予防会理事長

日本医療安全調査機構 専務理事 田中 慶司

ダンディで、グルメで、おおらか

「人偏^{にんぺん}の仲村です」というのが、お電話での名乗りであった。仕事の話でなく、ほとんどは食事のお誘いで、後輩を励ますだけの楽しい時間を過ごさせていだいた。仕事の上では入省した時の上司であり、また、最期もお仕えした。役人生活のスタートも、退官後も結核ということで不思議な因縁であった。

仕事を手取り足取りというかたちではなく、背中を見せてくれた。役人は人間関係を厚くすることが第一だと、「廊下トンビ」という言葉を教えてくれた。自らあまり席を温めていることはなかった。普通は担当補佐の仕事であるが、国会の質問取りを「ついて来い」と実際にやってみせてくれたり、課長通知の起案をさせるというような役人のイロハの指導を受けた。昼間に机の上をのぞくとWHOの報告書の翻訳などをしていたのが印象に残る。武見太郎の全盛期で駿河台の日本医師会館に行っていたのかもしれない。のんびりとした時代であった。業績は多々あると思うが、光るのは保険局の医療課長の時代、有名な56年診療報酬の改訂をこなされたことである。臨床検査の点数の「まるめ」を武見会長に受け入れてもらい、出来高払いの原則に楔を打った功績は大である。また、難病対策の立ち上げの仕事をしたことがご自慢で、初代の難病課長だと誇らしく何回も話しておられた。その時の医学の最先端に関与し、学者先生方と議論され世界的にも評価される難病の研究事業を立ち上げた。

アフターファイブは付き合いの広さで、当時はよく

あった夜の会合を初めて経験させてくれた。お宅が新宿に近かったので二次会は新宿で、ダンスもうまくおしゃれに遊びをされていた。午後3時にラジオ体操の音楽がかかると率先して始めたり、職場の雰囲気作りにも気を使っていた、というより自然体だったのかも知れない。ゴルフもマージャンも如才なく楽しんでおられたようであるが、私は不調法でご紹介できない。

小生の退官後にまたお世話になった。ちょうど結核研究所の在り方検討委員会が始まることで、5年前の報告書の見直しの手伝いを命じられた。各部の研究者に話を聞いたり、先輩方のインタビューを楽しくさせていただいた。まとめを報告しても大きな流れを質問されるだけで、各部の組織などの細かいことはあまり気にされてはおられなかった。歴史ある研究所の世界的な存在感をどう高めていくか、ご心配されていた。低蔓延国の結核対策の海外調査に参加するように勧めていただいたり、ウズベキスタンの結核プロジェクトの評価に派遣されたり、国際化の流れに目を向けるように指導を受けた。直接予防会の経営には関与しなかったが、幹部の人事など意見を聞かれ逆に何が問題と考えているのか組織のもっていき方が見えた。予防会の70周年記念式典には天皇皇后両陛下の行幸啓をいただき、理事長が先導をされていたが、この時陛下が自分も結核の治療をされていたこととお話になり、会場の全員が驚かされたことは忘れられない。

役所時代は人事の担当責任者だったので、職を離れても後輩の異動に関しての情報はことのほか詳しく、

また後々までも特に技官の処遇に関しては気にかけられておられた。

すらりとした体躯は昔からであるが、胃の手術をしたその後遺症でもあった。また晩年はパーキンソン病にかかり、典型的な症状も少なく薬も効いていたように見え、それほど仕事に支障はないようであったが、自在闊達な面は少し陰ってしまった。頭脳は明晰で付

き合いの良さもあり、体の不自由を押しているいろいろ会合などでお見かけした。最後は今年の2月で、車いす姿であったが、お元気で談笑され、これが多くの仲間、後輩とのお別れになった。

衛生行政に生涯をささげられ、国内外の結核対策に貢献された、尊敬する先輩の御霊安かれと祈ります。

故 仲村英一先生の思い出 日本の保健医療国際化の時代

仲村英一先生が厚生省幹部として、日本の公衆衛生の国際化の舞台に立って指導力を発揮されたのは、1970年代の後半から1990年代の前半。日本が今とは真反対に、ジャパン・アズ・ナンバーワンと言う気概で海外に積極的に打って出ようとする時代であった。私は、国際的な活躍を夢見ながら日本の役人としてスタートした時であり、仲村英一先生の薫陶をうけたことは一生の宝と思いキャリアを積んできた。

保険局医療課長や統計情報部長を経て、保健医療局長から健康政策局長へ。国際的な仕事を見事にこなしながら、医系技官の最高位にまでご昇任された。先生の優れた国際感覚と語学力が遺憾なく発揮されたのは、国会に呼ばれる機会が他の局長に比べて少ないので、WHOなど国際関係を一手に引き受けるという役回りのポストでもある統計情報部長になられてからのことである。WHO会議においては日本政府代表団の責任者を頻回に務められ、1985年の第38回WHO総会では5人の総会副議長の筆頭に任じられた。先生は、過去3年の議事録から抽出した会議用語集作成を筆者に下命され、徹底的に事前勉強された。例えば演説の区切り区切りに「議長」と呼びかけるとか、発言機会を与えとときの言い回しなど独特な表現法を記憶されるとともに、総会手続き規則を読み込み、複数の加盟国が発言を同時に求めた時のさばき方、緊急動議が出された際の取り扱いなどを熱心に研究された。しかも、先生はそれを楽しんでおられるかのように見受けられた。

晩年、後進を指導される際、「子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者」という論語を引用しながら、「君の担当している事柄を日本で一番真剣に考えてい

前WHO事務局長補・慶應義塾大学特任教授 中谷 比呂樹

るのは君のはずだ。それを楽しいと思わなければ、役人の仕事などはつまらないから止めてしまえ」と言っておられた。このように周到な準備をされたので、議事の采配は真に安定感があり、色黒く長身でスマートな先生を見て「本当に日本人か」と呟く代表団の声を私は耳にした。日本の保健医療の国際化は日本としては初めての選挙による国連機関長としてWHO事務局長中嶋宏博士を1988年に産むことで結実したが、理念よりも実践重視という方針が、古くからの欧米系職員との軋轢を生み、再選については危ういという残念な状況にいたった。その状況を好転させるために、既に厚生省を退いておられた仲村先生が執行理事に就任され、1993年1月の理事会に臨まれた。先生は、また、綿密に準備をされ、中嶋先生の功績とこれから更に努力すべき点を明らかにされ、誠意をもって他国執行理事に当たられた。その結果、めでたく再選が果たされ、ポリオ根絶事業など今日にいたるWHO事業の多くが軌道にのった。一方、当時のWHO会議は、今と比べてのんびりしており、WHO総会にあっては開催期間が2週間と長かったため、ワインの好きな先生とともに、日曜日にブルゴーニュのロマネ・コンティの畑を見に行ったりした。

このような日本の国際化の黎明期に大きな功績を残された先生が今は無い事は真に寂しいことである。途上国への貢献としての国際保健から、日本再生の切り札としての医療の国際展開へ、日本と国際保健の関わり方が大きく変わる時期に、先見の明を持った仲村英一先生を失ったことは痛恨の極みである。国際的にも凛とした至誠の人、仲村英一先生が残された様々な教訓を後に続く我々が生かし、平和国家としての日本が世界に貢献してゆく決意を申し述べ、先生の御霊が安らかなることを心からお祈りする次第です。

国際研修「平成28年度UHC時代における結核制圧コース」に参加して

中国瀋陽市第十人民医院

瀋陽市胸科医院 陳 禹



私は瀋陽市第十人民医院（瀋陽市胸科医院）の陳禹です。2016年5月30日より2016年7月30日まで、当院の派遣でJICA（Japan International Cooperation Agency）が主催する国際研修コースに参加しました。このような結核知識養成コースに参加させていただきましたことを心より感謝いたします。

このコースではUHC時代の結核対策というテーマに沿って、WHOの新しい世界戦略である「The End TB Strategy」とUHC、その関係を学びました。この戦略のビジョンは世界に結核による死亡、発病、苦痛をゼロにすることを目指すということです。

このコースの主な内容は世界結核の流行状況紹介、結核病検査室の診断技術及び作用、結核放射線診断技術及び品質管理、MDR結核治療管理策略、エイズと結核合併感染、結核病免疫遺伝子、喫煙と結核、小児結核、結核遅延分析、結核治療評価、結核統計学と研究方法などです。

研修成果の一つである各自の問題分析に基づくオペレーション研究の策定では、私達の国は多剤耐性結核の高蔓延国であるため、私は『患者の家族に対する健康教育訓練におけるMDR-TB患者の治療効果』をテーマに選びました。一生懸命研修にのぞみ、先生のご指

導のおかげで、研究案を策定出来ました。そして、無事に研修を修了することができました。

今回の国際研修コースに参加させていただき、私の専門知識と診療のレベルがさらに向上しました。もっと優秀な医者になるため、私は全力を尽くし、当院の教育や研究などに協力し、結核事業の発展に貢献したいと思います。この場をお借りして、貴結核予防会が研修の機会を与えてくださったことに深く感謝いたします。当院と貴会の友情を私は一生忘れられません。

末筆ながら、貴会皆様のご多幸と益々のご発展を祈念申し上げます。🐼



結核予防会大阪病院で副院長の松本先生による結核病棟の説明



あいりん地区でDOTSの見学（左より2人目 筆者）

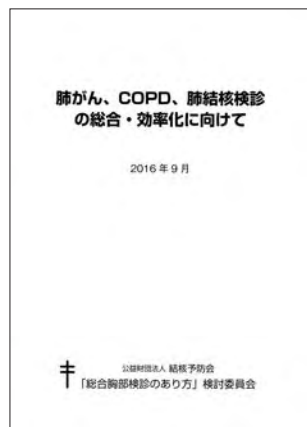


プレゼンテーションを行う筆者

「総合胸部検診のあり方」検討委員会 報告書の刊行に際して

結核予防会

専務理事 竹下 隆夫



「総合胸部検診のあり方」検討委員会報告書

肺は、脊椎動物では呼吸、無脊椎動物でもガス交換を行う機能の臓器である。そして、「肺腑を衝く」とか「肺腑を抉る」という言葉があるが、肺腑とは心の奥底、心底、転じて急所を意味し、活力の根源である魂（たましい）を意味する「魄」を宿すとも言われている。こうしたことから古来「落魄」という表現が用いられて、肺が充実していないと悲しみやすく心配性になるとされているように、肺は生命の維持とともに活力の陰陽をも象徴する極めて重要な臓器であると言える。

さて、こうした重要な臓器である肺の検診のあり方について、平成27年5月から6回にわたる標記委員会での議論を経て、このたび報告書『肺がん、COPD、肺結核検診の総合・効率化に向けて』が刊行された。

わが国の胸部検診の嚆矢は、言うまでもなく胸部エックス線写真撮影法の開発をうけて本格的に始まった結核検診であり、既に80年に及ぶ歴史を有している。明治時代から昭和30年代にかけて「国民病」と恐れられた結核が、いわば胸部エックス線間接撮影と全国津々浦々を巡回したエックス線検診車の普及等による早期発見、公的負担による早期治療、そしてBCG接種による予防の徹底という国を挙げての対策に努めた結果減少していくと、胸部検診の中心は高齢化社会の進展に伴う肺がんの早期発見に活かされるようになる。

この間、胸部エックス線撮影法は精度管理の向上とともに数々の技術的進歩を遂げていく。また、他方で

低線量CTの開発やCT検診車の導入によって、肺がん発見率は大幅に向上していく。肺がんは現在、部位別死亡率において男性で第1位、女性では第2位を占め、いずれも近年増加傾向にあるが、男性の比率が高いのは喫煙率の高さに比例している。

そして、2030年までに世界の死因の第3位になるであろうとWHOが予測しているCOPD（慢性閉塞性肺疾患）もまた喫煙による気道や肺胞の炎症で生じ、肺の働きが低下する病であるが、わが国では2013年にスタートした「健康日本21（第2次）」において対策を要する主要な生活習慣病として新たな胸部検診の対象に位置づけられた。このCOPDに関して結核予防会では2006年から本支部間の共同研究としての取り組みを開始し、実態調査と質問表・スパイロメトリーを用いたCOPD検診の有用性等の検討を行ってきた。加えて、千葉県支部においては、スパイロメトリーによるCOPD検診を低線量肺がんCT検診のスクリーニングとして位置づける方法によって、既に一定の成果を上げている。

このような中で、「総合胸部検診のあり方」検討委員会では、胸部エックス線検診、低線量肺がんCT検診、スパイロメトリーを用いたCOPD検診をどのように結び付けて総合胸部検診としてシステム化するか審議を重ねた。本報告書はその成果であり、多くの方々、とりわけ全国の保健所や国保連合会の皆様にご高読いただければ幸いである。🐶





受動喫煙のない日本をめざす委員会 東京都知事小池百合子氏宛に要望書

平成28年9月6日（火）午後2時より、東京都庁第一庁舎1階の会議室（東京都新宿区）において、受動喫煙のない日本をめざす委員会（委員長 下光輝一氏：代理 増田和茂氏）は、小池知事宛の要望書と条例案を東京都政策企画局総務部知事秘書担当課長の大野貴史氏に手渡した。

今回は、133団体の賛同を得て要望書を提出することができた。やはり、東京2020に向けて機運は高まっているといえる。

当日は、都知事就任1カ月余りで、2日後にはリオ・パラリンピックの開会が迫った時期であったため、知事に直接会うことは叶わなかったが、大野氏は、責任を持って小池知事に手渡すと約束した。また、担当課にも知事宛文書を受け取ったことが伝達されることになった。

リオが終われば、次は東京ということ、受動喫煙の問題は知事の頭にあるという発言や、東京都医師会長の尾崎治夫先生ともすでにお会いになったという話もあり、小池知事も積極的に検討いただけるという感

触をつかんだ。

当日は、都庁記者クラブでの会見は開けなかったが、記者クラブ内に知事宛文書のコピー（右）を配布し、情報提供を行った。

（文責：普及広報課）



要望書を読み上げる増田先生（左から大野秘書課長、日本禁煙学会の来馬先生、健康・体力づくり事業財団増田先生、日本禁煙学会の作田先生）

第68回保健文化賞

結核予防会募金推進部小林部長が受賞！

第一生命が主催する「保健文化賞」は、1950年に創設され、近年では生活習慣病対策、高齢者や障害者への福祉、海外での医療や疾病対策など、その時代における様々な課題に継続的に取り組んでこられた団体および個人が表彰されます。

本年も第68回「保健文化賞」の受賞者が発表され、当会募金推進部長（前結核研究所対策支援部長）小林典子が個人部門で選ばれました。受賞者には厚生労働大臣から表彰状、第一生命保険株式会社から感謝状と賞金が贈られました。贈呈式は10月20日（木）に行われ、翌日天皇皇后両陛下への拝謁を賜りました。

【受賞対象となった業績】

30余年にわたり一貫して保健師の結核保健看護活動に関する卒後教育に従事するとともに、全国各地で結核対策の企画立案・実施・評価の支援を積極的に行った。特に服薬支援を軸とした患者支援を体系づけた日本版DOTSの開発・普及に貢献した。

（小松田）



カンボジア健診・検査センター設立プロジェクト進捗報告

結核予防会
国際部副部長
同部

柳 亮一郎
菅本 鉄広

結核予防会は2015年7月1日よりカンボジア国に日本式健診・検査センターの設立のためプロジェクトを進めており、カンボジア国唯一の国立医学部を有するカンボジア国保健科学大学と共同運営しています。

この度、検査センター建屋が完成となり、検査機器及び什器の搬入が終わりました。検査センターでは、

来所健診や出張健診における受診者様の血液検査に加え、近隣のクリニックや病院より患者様の検体を回収し検査を行います。当検査センター事業は、カンボジアでは日系企業としては初めての展開となり、血算・生化学・尿・免疫検査など日本と同等のクオリティーの提供を目指しています。



臨床検査室



事務室

パネルディスカッション『『レントゲン』がアフリカの健康を守る!』開催

9月1日、結核予防会会議室において、X線診断のアフリカの人々の健康への貢献をテーマに、パネルディスカッションを富士フイルム株式会社の協力を得て開催し、約30名の方に参加いただきました。

モデレーターの太田正樹結核研究所対策支援部長による結核まん延の現状と診断技術の概説に続いて、パネリストの平尾晋国際協力・結核国際情報センター国際研修科長より、ザンビアにおける草の根レベル支援の中での胸部X線写真の役割、撮影や読影を行う保健人材育成の取り組みが報告されました。次いで、富士フイルムの守田正治氏（メディカルシステム事業部・モダリティソリューション部・海外マーケティンググループ欧州・中東・アフリカ市場統括政府系プログラム統括）より、アフリカなど新興国の健康問題解決に向けたチャレンジが報告されました。先進国とは異なる過酷な使用環境に適応できず、故障したままで放置されるX線画像診断機器の現状が紹介され、X線画像のデジタル化をはじめ、不安定な電力供給や精密機器

の扱いに不慣れな医療スタッフなどの問題に応える製品開発、人材育成と一体化した機器の供給等について、国を超えたリージョン、大陸レベルでの視点をもった取り組みが報告されました。また、田中剛内閣官房国際感染症対策調整室企画官並びに山形律子JICA人間開発部保健第一グループ保健第二チーム課長より、それぞれの立場よりご発言をいただき、今後、関係者が協力して取り組みに繋げていく可能性について、意見を交わしました。（国際部 久保田）



富士フイルム 守田正治氏

多額のご寄附をくださった方々

〈指定寄附等〉(敬称略)

櫻林洋子(グリュエネスハイム新山手)、島尾忠男(本部)

〈複十字シール募金〉(敬称略)

福岡県 — 福岡県労働衛生センター、すみれ荘、特別養護老人ホームあさむつ苑、福井テレビジョン放送、福井総合病院、小林産婦人科医院、伊部病院、両林医院、本多レディースクリニック、北陸ワキタ、平野純葉、高村病院、みどりが丘病院、高柴家具、眼科原医院、大一印刷、中村病院、山内整形外科、佐藤整形外科形成外科、かさまファミリークリニック、吉村医院、柏原脳神経クリニック、ファイネス、荒川整形外科医院

京都府 — 近藤由紀男、矢崎紀、杉本直、長徳寺、福岡正恒、奥田桂子、田淵利子、前川清一郎、安岡五郎、有馬頼底、懺悔奉仕光泉林、山田文諒、井上正治、菱田多賀志、奥本恵治

大阪府 — キヤノンライフケアソリューションズ、向陽台薬局、金井史、國義、倉倉正春、平井治徳、下瀬雅士、増田國次、吉田忠春、西田智一、武内顕、光テレホニイ、アズワン訪問看護ステーション、竹見富夫、エバオン、河村信幸、山下晴己、戸川雅樹、樹光子、吉田哲郎、大阪公衆衛生協会事務局、野田家商工、日本電化工業所、鍵本成敏、中村裕之、大川和俊税理士事務所、高橋勝、啓仁会咲花病院、和田寿芳、西田邦輔、明治機械製作所、山本淳、中川修、大西洋子・洋一郎、北方寛、住吉大社、金子実雄、上田起業、本徳寺、安田光隆、りんでん幼稚園、池田典子、水野内科医院、豊島邦光、大平政義、田中利幸、クリーンケミカル、ケアセンターつばめ、新井忠之助、木村文雄、田中宏、弘生会老寿サナトリウム、多田昌彦、長山亭、井上艶子、鴻の里、大川進一郎、橘衣代、浜田民子、日炉工業、訪問看護ステーション鶴見橋、溝口内科、志野医院、中野皮フ科医院、大嶋クリニック、彩、辻川豊、中瀬事務所、吉川智貴、山内榮樹、谷口学、木下芳明、総持寺、上原洋介、ファーマシーオカムラ薬局光風台店、片本皖也、小倉剛、ファーマシーオカムラ薬局ときわ台店、須永恭司、嶋田誠、鈴木豊栄、渡辺会渡辺病院、泉本医院、知恵の苑介護老人保健施設、北原医院、東田クリニック、三浦環子、藤田修一、水野史郎、藤野正勝、大本昭子、関根清寿、西本卓爾、田中正子、北條秀樹、畑下辰典、宮前医院、岩下とみる、勝喜久、コガチ金属工業、浪速工業所、菅原猛行、ホームヘルプサービスまなか、東洋ハイテック、中本好子、正幸会病院、中村好一、飯尾明郎、メンデル、友国泰治、日本医化器械製作所、中村孝治、小林修爾、前田一美、水谷義房、上田慶一、

木村元士、福祉ネット大和川、大豊化学、小田潤一、東洋製薬化成、石田茂、阪本薬品工業、大丸鋳造製作所、上田勝弘事務所、ツル薬局、飯田順雅、耳鼻咽喉科の医院、藪木恵照、坂本宗嗣、久徳武久、大崎正博、石田泰三、大阪自強館、福田刃物、下正行、野村明雄、大京システム開発、阿部奈々美、岡本功、西川昌廣・節子、ボルカノ、ファミリー薬局なんば店、伊坂泰治、西淀病院、梁川健弘、岡村忠弘、南順吉、清翠会牧病院、井上英隆、福村タイヤ商会、エルアンドエル、河合憲一、梅木英二、名和茂、山岡建設、西原弘、米虫利津子、中道昇、伊藤栄次、西原昌子、山本洋介、紀伊産業、北口隆広、富美和会特別養護老人ホーム錦織荘、中川歯科、後藤和彦、全国公益法人協会関西西事務局、中野眞雅、旗笠裕久、東洋ビルクリーンサービス、藤井和男

福岡県 — 福岡県職員、福岡県警察職員、福岡市職員、福岡県筑紫保健福祉環境事務所、福岡県粕屋保健福祉事務所、福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所、福岡県北筑後保健福祉環境事務所、福岡県糸島保健福祉事務所、福岡県南筑後保健福祉環境事務所、福岡県嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所、福岡県田川保健福祉事務所、福岡県京築保健福祉環境事務所、福岡市南区保健福祉センター、福岡市東区保健福祉センター、朝倉恵愛会宝珠の郷、朝倉市女性連絡協議会、アドバンスウェア、阿部末雄、飯田勝行、飯塚市婦人会、石蔵富士子、石崎医院、井手律子、糸島医師会、糸島市役所、糸島薬剤師会、井上会篠栗病院、井上福三、入江内科医院、ウィズ、上田忠成、うきは市女性連絡協議会、映広、大川市連合婦人会、大木町婦人会、岡垣町婦人会、岡税務労務会計事務所、奥英治、遠賀中間歯科医師会、遠賀町婦人会、春日市婦人会、蒲池咲子、菊池医院、北九州市薬剤師会、北九州市環境衛生総連合会、北九州市歯科医師会、北原靖久、旭陽電気、久保カヨ子、久美愛福岡耳納高原病院、久留米市女性の会連絡協議会、久留米市保健所、恵愛会福岡病院、桂川町婦人会、敬天会武田病院、広真ビルテック、河野弘道、小竹町婦人会、小竹町役場、小林政人税理士事務所、西方寺、阪本印刷、シー・アール・シー、篠崎社労士事務所、志摩園、島松循環器内科クリニック、社会保険診療報酬支払基金福岡支部、十連病院、新日本薬局、西南学院、聖マリアヘルスケアセンター、生命保険協会福岡協会、聖ルチア会聖ルチア病院、清和会長田病院、添田町婦人会、太宰府市婦人会、田主丸町地域婦人会連絡協議会、田原整形外科医院、ダンステリア、稚加賀、筑後市連合婦人会、筑紫野市地域婦人会、筑紫野市役所、天神会、東京法規出版九州支社、那珂川町婦人会、中間市婦人会、中山幸一、南

湊会博愛病院、直方鞍手薬剤師会、直方鞍手医師会、直方歯科医師会、ハウジング大手門、箱田会箱田病院、林法生、原田英治、原鶴温泉病院、久野循環器科内科医院、平尾山病院、広川病院、福岡医師協同組合、福岡医療団、福岡浦添クリニック、福岡県医師会、福岡県結核予防婦人会、福岡県信用保証協会、福岡県指定自動車学校協会、福岡県歯科医師会、福岡県立精神医療センター太宰府病院、福岡市医師会、福岡市鮮魚卸協同組合、福岡婦人問題研究所、福津市地域婦人会、二日市共立病院、芙蓉会筑紫南ヶ丘病院、文佑会原病院、ホリスコーポレーション、松岡会松岡病院、松原俊幸、まもる会、みつる会城浜保育園、宮若市職員互助会、みらい筑紫野病院、宗像歯科医師会、宗像薬剤師会、村上建経、柳川市地域婦人会連絡協議会、山本公認会計士・税理士事務所、ゆうかり学園、雪の聖母会聖マリア病院、横尾豊子、吉原太郎

本部 — 内藤亮一、成林庵、業務公報社、川口市管工事業協同組合、武蔵越生高等学校、庄司税理士事務所、小林糸子、舞田正暉、御園生保子、河野和雄、小山明、木南富吉、羽石修三、望月一志、高田滋、松崎健三、シラクラテツヤ、相東運輸、宇田京子、鈴木医院、ダイヤモンド・ビーアール・センター、電子制御国際、金子運送、ギャルドユウ・エス・ビー、東京中央セレモニーセンター、丸善超硬、宮田俊夫、RayArc、小林知勝、嶋健健康管理センター、イフ、正覚寺、アドバンスト・ネット、三鷹光器、村田秀寛、伊藤保、久我晃二、水津唯男、所敬、滝沢宣子、熊木千恵子、遠藤昌一、ヒロセチエコ、宝生寺、開真産業、天誠会、ヤスマ、誠宏プロセス、及川装飾店、常泉院、東長寺、栗原光起、浄国寺、古屋長子、平林千江、岡崎三郎、藤崎源二郎、榎本喜好、横田進、野本震作、總持寺、ライセンスアカデミー、日進電子工業、高良義雄、尾形恵子、丸瀬幹子、すみれ、有馬愼二、青柳守城、矢野政顕、浅野橋悦、仲川勝利、黒井朝久、牛尾正孝、極楽寺、中島不動産、能島プロセス、源照寺、世尊院、石村英雄、織細直義、中村福子、高橋厚夫、村井温、小船善弘、田中雅史、高橋清子、大山仁、須藤八重子、菅谷有楓子、ホソノイチロウ、天桂庵、浜田興重、荒木元、富士野みや、喜多崇介、浜田寛子、木曾マス子、石田弘子、上野毛幼稚園、藤井春彦、篠田春美、武藤良知、岸友子、三原紀久恵、松本千恵子、松本光江、ボニー、平岡貞義、武田秀夫、坂井光夫、岡田一郎、東村山市医師会、医療施設近代化センター、イトヤ食品、森山誠哉、曾我正彦、早田康成、庄司郁子、大倉冷機、かわた菓子研究所、栄香料、龍森、敬信殿、野口美恵子、柳川祐三、田村碩子、山本博章、ツチャ、第一製版、エルフォー企画、竹中小夜江

平成 28 年 11 月 15 日 発行
複十字 2016 年 371 号
編集兼発行人 前川 眞悟
発行所 公益財団法人結核予防会
〒101-0061 東京都千代田区三崎町 1-3-12
電話 03(3292)9211 (代)
印刷所 勝美印刷株式会社
東京都文京区白山 1-13-7
電話 03(3812)5201

結核予防会ホームページ
URL <http://www.jatahq.org/>

＜編集後記＞各地で開催した COPD 啓発イベントに肺年齢測定スタッフとして参加。ベテランの技師さんは慣れた対応で次から次へと測定。その対応ぶりに目を見張り、自分の出番はなく、にわか勉強の成果なし。

本誌は皆様からお寄せいただいた複十字シール募金の益金により作られています。

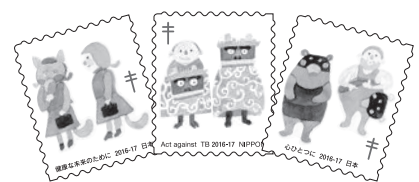
★複十字シール運動 — みんなの力で目指す、結核・肺がんのない社会 —

平成28年度複十字シール

複十字シール運動は、結核や肺がんなど、胸の病気をなくすため100年近く続いている世界共通の募金活動です。複十字シールを通じて集められた益金は、研究、健診、普及活動、国際協力事業などの推進に大きく役立っています。皆様のあたたかいご協力を、心よりお願いいたします。

募金方法やお問い合わせ：普及広報課

結核予防会 寄付 検査 またはフリーダイヤル：0120-416864 (平日 9:00~17:00)





国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋 地域学術大会 (APRC2017) 準備委員会だより

No.9

学術大会開催まで約半年となりました。特別講演やシンポジウムの内容・演者がほぼ固まり、最終調整が進んでいます。結核のみならず、禁煙、喘息、肺がん等の呼吸器疾患、また全国結核予防婦人団体連絡協議会やWHOその他の国際団体との共同企画もあり、10月中旬にプログラムをホームページに掲載予定です。ご期待ください。一般演題はこれまでに163題もの応募があり、アジア・太平洋地域を中心に多くの参加者が期待されます。

初日（2017年3月22日〈水〉）の午前中には、日本の結核治療の聖地“清瀬”を知っていただくために、複十字病院の結核病棟や結核研究所の研究施設を見学していただくオプションツアーを企画しています。



写真 ホームページのトップ画面 (<http://www.aprc2017.jp/>)

結核研究所のスタッフが参加する国際会議で、パンフレットを配布しています。また、10月25日（火）～29日（土）まで英国リバプールで開催される国際結核肺疾患予防連合世界大会では、結核予防会／結核研究所のブースに、ポスターやプログラムの概略を説明したチラシを展示し、2017年3月の桜の咲く季節に、日本に来ていただくようアピールします。

また、本会の早期参加申込は、2017年1月末までですので、ふるってご参加ください。参加登録等のお困りごとについては、事業部普及広報課（電話03-3292-9288）まで遠慮なくご用命ください。

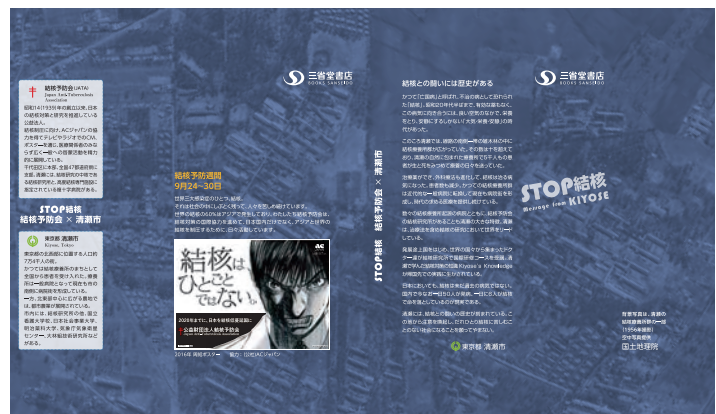
グローバルフェスタJAPAN2016「for the First Step ～新しい目標に向かって～」

10月1～2日、東京お台場にて、「グローバルフェスタJAPAN2016」が開催され、国際協力活動を行う政府機関、NGO、企業など269団体が参加し、10万人の来場がありました。結核予防会は、ブースを出展し、結核の現状や国際協力活動を紹介しました。2日、活動報告コーナーでは、「医療協力を通じて、平和について考える。－バングラデシュの人々との40年の絆から－」と題して、テロ事件が記憶に新しいバングラデシュへの支援を続けてきた石川信克結核研究所長より、「平和」をキーワードに経験をお話いただきました。ブース、報告会にお立ち寄りいただいた皆さま、ありがとうございました。（国際部 久保田）



清瀬市とブックカバーを作りました！

かつて清瀬の線路の南側に結核診療所が広がっていた。結核予防会と清瀬市、不思議な糸で結ばれた両者。今年の予防週間に三省堂書店における文庫本のブックカバーと葉による結核予防の広報活動を行った。結核との闘いはまだ終わらない。



どうして

無関心で
いられるんですか
……!?

結核は、
ひとつと
ではない。

世界三大感染症のひとつ、結核。

それは社会の中にしぶとく残って、
人々を苦しめ続けています。

世界の結核の60%はアジアで発生しており、
わたしたち結核予防会は、
結核対策の国際協力を進めて、
日本国内だけでなく、アジアと世界の結核を
制圧するために、日々活動しています。

2020年までに、日本を結核低蔓延国に^{*}

*結核罹患率10万対10以下

+公益財団法人結核予防会
Japan Anti-Tuberculosis Association